

議員ハ委員總會ニ於テ決定シタル合理ノ計畫ヲ遵守スルヲ能ハス第
七年三月ノ條例ヲ以テ始メテ該稅ヲ置テヨリ爾後數々徵課ノ方法ヲ
改正セリ

佛國門窓稅ハ凡テ住家製造所ノ道路庭園ニ臨ム所ノ入口窓口ニ課ス
ヘキ者トシ内庭ヨリ内庭ニ通シ若クハ内庭ヨリ園圃ニ達スル所ノ内
部ノ入口并ニ内部ニアル樓梯各室ノ入口ニハ之ヲ課セス公務ニ使用
スル所ノ家屋ハ之ニ住スル吏員カ私用スル部分ノ外ハ租稅ヲ課セス
又農業ノ負擔ヲ重フセサルカ爲メニ物置羊舍牛馬舍穴藏等居室ニア
ラサル者并ニ屋上ノ窓ニハ一切租稅ヲ課セス然ルニ千八百三十二年
四月二十一日ノ條例ヲ以テ屋上ノ窓ト雖居室ノ明リ取リトナル時ハ
免稅ノ限リニアラストナセリ

議院ハ尙モ農工二業ノ利ヲ計リ一切農地ノ車門ハ其數ニ拘ハラズ地

所一箇毎ニ一門ト見做シ人口五千以下ノ市邑ニ於テ商店ニ用ヒサル
家屋ノ窓數五箇ニ過キサル者ノ車馬ノ入口ハ皆通常ノ入口トシテ之
ヲ算シ製造處ニ於テハ製造家ノ居室及ヒ番人手代等ノ居室ノ窓ニア
ラサレハ租稅ヲ課セサルヘントセリ

由是觀之ハ佛國ニ於テ門窓稅ヲ免ル者ハ甚ク少ナキヲ知ルヘシ元來
佛國門窓稅ノ徵課法交々取分法トナリ配賦法トナリ一定セス方今ニ
於テハ頗ル配賦法ノ性質ヲ負フト雖取分配賦混合ノ法ト云フヘキナ
リ

初メ門窓稅ヲ置クヤ取分法ヲ以テ之ヲ徵セリ然ルニ該稅ノ賦課ヲ以
テ地方ニ委テ地方政府ハ大ニ其任ヲ怠リ徵收ノ事ヲカメスシテ收入
年ニ減セリ之ヲ以テ遂ニ中央政府ハ一定ノ稅額ヲ收入セント欲シ革
命ノ第十年八月十三日ノ條例ヲ以テ改メテ配賦法トナシ是ヨリ該稅

ノ收入高ヲ一定シテ千八百三十一年ニ至レリ同年三月二十六日ノ條例ヲ以テ佛國政府ハ門窓稅ヲ以テ取分法ニ復セリ抑租稅ノ配賦法ハ決シテ平等ナルヲ得ス又政府收入ノ増加ヲ妨クル者ニシテ良法タルヲ得ス故ニ千八百三十一年ノ條例ハ過ヲ改ムル者ト云フヘシ當年ノ改正ハ頗ル美果ヲ得テ急ニ政府ノ收入ヲ倍スルニ至レリ革命ノ第十年初メテ配賦法ヲ行フテヨリ中央政府門窓稅ノ收入高ハ僅ニ千二百八十一萬二千八百四「フランク」ニ止レリト雖千八百三十年ニハ急ニ増加シテ二千五百六十六萬七千三百三十六「フランク」トナレリ然ルニ稅率ニ至リテハ敢テ増加セシニアラス舊ニ依リテ之ヲ課セリト雖只州邑ノ惣額ヲ以テ之ヲ見ル時ハ某州ハ從前ノ三倍ヲ出シ某邑ハ從前ノ六倍ヲ拂ヒシヲ見ル之ヲ以テ苦情百方ニ起レリ當時政府新々ニ定マリ根據未タ固カラス頗ル難ヲ忍フノ氣ニ乏シク遂

ニ千八百三十二年四月二十一日ノ條例ヲ以テ門窓稅ノ法ヲ改メ尙分頭稅ニ於ケルカ如ク配賦法トナシ正稅ノ徵收高ヲ定メテ二千二百萬「フランク」トセリ千八百三十七年ニ至ル迄右ノ徵收高ハ依然トシテ増減ナク此年ニ至リテ初メテ千八百三十五年八月十七日ノ條例ヲ實施シ爾後毎年ノ徵收高ヲ増加スルヲ得タリ該條例ニ據ル時ハ門窓稅ノ徵收高ハ毎年新築家屋ノ門窓ノ數ニ由テ増加スヘク又廢毀家屋ノ門窓ノ數ニ由テ減少スヘシ又千八百三十八年七月十四日ノ條例ヲ以テ千八百四十二年ノ國會ニ於テ門窓稅ノ配賦法ヲ再議シ爾後十年毎ニ國會ニ於テ其新策ヲ討議スヘシトセリ千八百四十四年ニ於テハ右ノ條例ヲ實踐セリト雖同年八月四日ノ條例ヲ以テ每十年ノ改正ヲ止メ門窓稅ノ各州ニ配課スヘキ高ハ官ノ人口調査ニ由リ各邑ノ負擔スヘキ稅額増減ニ從テ常ニ増減スヘシトセリ(本文條例ノ詳カナルハザイ

ギニ氏「トレーター、デザムボー、アンフランス」第一卷四十七八葉ヲ見ル
 へ「元來該説ノ徵收ハ種々ノ事情ヲ斟酌シテ税率ヲ定ムル者ニシテ
 就中各邑人口ノ多少ニ從フ者ナリ
 斯ノ如ク各州ノ配課高ハ家屋ノ増減各邑人口ノ變動ニ由テ左右スル
 所ノ税率ノ増減ニ由リ毎年多少アルヲ以テ門窓正税ノ收入ハ地租ニ
 比スレハ屈伸力ヲ有シ年々増加スルヲ得ル者トス
 千八百三十二年門窓正税ノ收入高ハ二千二百萬フランクナリシト雖
 千八百四十二年ニハ増シテ二千三百二十五萬千十二フランクトナリ
 千八百五十二年ニハ二千五百五十五萬九千四百八十一フランク千八
 百五十六年ニハ二千六百七十四萬九千五百十四フランク千八百六十
 年ニハ二千八百四十五萬千三百十三フランク千八百六十九年ニハ三
 千三百三十七萬八千八百七十二フランクトナレリ而シテ千八百七十

五年ニハ二州ヲ失ナヘリト雖尙三千四百十五萬六千二十九フランク
 ニ達シ副税ノ中央政府ニ收入セシ者ヲ合ス時ハ三千九百八十四萬二
 千フランクニ上レリ千八百七十五年門窓副税ノ惣收入高ハ實ニ二千
 百六十五萬五千五百四十八フランクナリ千八百七十六年ニ於テ正副
 税ヲ合セテ中央政府ノ收入高四千三十萬フランク地方ノ收入凡ソ二
 千三百萬フランクナルヲ以テ門窓稅收入高ハ國稅地方稅ヲ合セテ六
 千三百萬フランクナリト云フヘシ
 佛國ノ門窓稅ハ配賦法ナリト雖之ヲ徵收スルニ稅率アリ千八百三十
 二年ノ條例ヲ以テ稅率ヲ分テ二部トセリ第一ハ門窓一箇ヨリ五箇ニ
 至ル迄ノ家屋ニ關スル者ニシテ該部ノ租稅徵課法ハ左ノ如シ
 邑ノ人口五千以下ニアル者ハ門窓一箇ニ付三十サンチームヲ課シ二
 箇ニ付四十五サンチーム三箇ニ付九十サンチーム四箇ニ付一「フランク」

六十「サンチーム」五箇ニ二「フランク」五十「サンチーム」ヲ課ス人口五千ヨ
 リ一萬ニ至ル迄ノ邑ハ同數ノ門窓ニシテ課稅少シク多ク一萬ヨリ二
 萬五千二萬五千ヨリ五萬五萬ヨリ十萬ニ至ル迄ヲ分テ各々一級トシ
 一級ヲ上ル毎ニ次第ニ稅額ヲ増シ最後ニ十萬以上ノ人口ヲ有スル邑
 ヲ一級トシ稅額最モ重シ門窓一箇ニ付一「フランク」二箇ニ一「フランク」
 五十「サンチーム」三箇ニ四「フランク」五十「サンチーム」四箇ニ六「フランク」
 四十「サンチーム」五箇ニ八「フランク」五十「サンチーム」ヲ課ス
 小家屋ニ課スル所ノ門窓稅ハ常ニ重カラスト雖副稅ヲ以テ之ヲ増加
 ス各邑人口ノ多寡ニ應シテ階級ヲ定ムルハ家屋ノ價格ハ人口ノ多少
 ニ由リテ異ナレハナリ而シテ其形ハ累進タリト雖實際累進稅ニアラ
 サルナリ如何トナレハ五箇ノ門窓ヲ有スル家屋ハ一箇ノ門窓ヲ有ス
 ル所ノ者ニ比スレハ其價格五倍ニ過クソハナリ夫レ小家屋ノ列ニア

リテ三四箇若クハ五箇ノ門窓ヲ有スル者ハ只ニ一箇ノ門窓ヲ有スル
 小舎ノ三四倍若クハ五倍ノ品位價格ヲ有スルハ衆ノ知ル處ナリ然ラ
 ハ則チ該稅ニ累進ノ形アル者ハ豈ニ當然ナラスヤ
 第二部ハ五箇以上ノ門窓ヲ有スル所ノ家屋トス右兩部ノ稅率ニ異ナ
 ル所ノ要領ハ第一部ハ累進ノ形ヲ有シ第二部ニ於テハ累進ノ形ナキ
 是ナリ五箇以上ノ門窓ヲ有スル所ノ家屋ハ門窓ノ種類ヲ同フスル
 時ハ同一ノ稅額ヲ課シ門窓ノ數ヲ以テ家屋ノ階級ヲ分タス例ヘハ茲
 ニ門窓二十箇ヲ有スル家屋アリ其每箇ニ負擔スル所ノ額ハ門窓十箇ノ
 家屋カ每箇ニ負擔スル處ト毫釐ノ差ナシ然ルニ第一部ニ屬スル所ノ
 家屋ハ門窓五箇ヲ有スレハ殆ト門窓一箇ノ家屋ノ負擔ニ九倍セリ
 門窓ノ數五箇以上ノ家屋ニ於テハ門窓ノ階級ヲ分テ三トナス第一ヲ
 馬車荷車ノ入口及ヒ商店ノ入口トシ第二ヲ通常ノ入口并ニレデシヨ

ウゼー(土地ニ密接スル所)間(アントルツル)重ニ初階トレデシヨウゼー
一ノ間ニアル所ノ間ヲ云フ)及ヒ初階二階ノ窓口トシ第三ヲ三階以上
ノ窓口トナス

右各級ノ税額ハ其家屋ノアル邑ノ人口ニ應シテ之ヲ異ニシ邑ハ又其
人口ニ從ヒ分テ六級トス初級ヲ五千以下ノ人口ヲ有スル邑トナシ最
後ノ級即チ税額最モ重キ者ヲ十萬以上ノ人口ヲ有スル市府トナス
馬車荷車ノ入口及ヒ商店ノ入口ニハ

- 初級 一フランク六〇サントム
- 二級 三フランク五〇サントム
- 三級 七フランク四〇サントム
- 四級 一フランク二〇サントム
- 五級 一五フランク

・六級 一八フランク八〇サントム
通常ノ入口并ニレデシヨウゼー(アントルツル)初階二階ノ窓口ハ

- 初級 六十サントム
- 二級 七五サントム
- 三級 九〇サントム
- 四級 一フランク二〇サントム
- 五級 一フランク五〇サントム
- 六級 一フランク八〇サントム

而シテ三階以上ノ窓口ニハ人口五千以下ノ邑ハ六十サントム五千
以上ハ悉ク皆七十五サントムヲ課ス然ルニ此ニ舉ル所ノ者ハ皆正
税ノ額ニシテ副税ヲ加レハ殆ト之ニ倍スル者ト知ルヘシ
斯ノ如ク門窓税ハ邑ノ人口窓口ノ高低若クハ入口ノ種類ニ由リテ之

ヲ賦課セシ者ニシテ不完全ノ甚キヲ見ルヘシ例ヘハ窓口大ニシテ其數少ナキ家屋ノ價格ハ窓口小ニ數多キ家屋ノ價格ヨリ大ナルヲ得ヘシ方今建築家カ巨館美屋ヲ建ルニ窓數ヲ減シテ之ヲ大ニセンヲ力ムルヲ著キ者ナリ

大府ニ於テハ斯ノ如キヨリ爲メニ不平均ノ甚キヲ以テ中央政府ハ之ヲ避ント欲シ巴里 リオン ボルドーノ三府ニハ特別ノ法ヲ設ケ門窓稅配賦高ヲ分課スルニ當リ家賃價格ト窓數ヲ相照シテ之ヲ定ムル者トセリ此ニ於テカ門窓稅ハ動產稅ノ附屬タル者ノ如シ

余輩ハ佛國ノ門窓稅ハ稅率ニ由テ之ヲ課シ而シテ配賦ノ法ヲ行フ者ナリト云ヘリ此二ノ者ハ其性質相容レサルカ如キヲ以テ解シ難キ者アラシク請フ之ヲ説ク

州ニ配賦スル所ノ額ハ毎年家屋ノ増減及ヒ諸邑ノ人口ノ變動ニ由テ

左右スル所ノ稅率ノ變化ニ從テ増減セラル州會郡會ハ増減折衷ノ權ヲ有スル者ニシテ其郡ニ配賦シ邑ニ配賦スルニ各々又家屋ノ増減人口ノ變動ヲ斟酌スル者トス最後ニ人民ニ配賦スルハ配賦吏員ノ任ニシテ該吏員ハ「コントローラル」ト協議シテ毎年被課物ノ變動ヲ調査ス各人一個ノ配賦高ヲ算定スルハ前記ノ稅率ニ從ヒ其邑ノ人口ノ割合ニヨルト雖之ヲ算集シテ其總額其邑ニ配賦セラレタル高ニ過不及アル時ハ各民ノ負擔スヘキ高ニ比例シテ徵收高ヲ増減スル者トス

已ニ前章ニ舉ケタル如ク佛國門窓稅ノ總收入高ハ千八百七十六年ニ於テ六千三百萬フランクニシテ中央政府ニ收入セシヲ四千二十九萬八千フランク正稅三千四百五十萬フランク副稅凡ツ六百萬フランクトシ州邑ノ副稅ヲ以テ地方ニ收入セシヲ二千二百八十萬四千フランクトス千八百三十二年以後正稅ハ二千二百萬フランクヨリ三千四百

萬「フランク」トナリシ者ニシテ五割四分ノ増加ヲ致セシ者ナリ是ヲ以テ之ヲ見レハ門窓稅收入ノ増加ハ地租ニ比スレハ速カナリト云ヘシ官ノ文書ニ據リテ被稅家屋門窓ノ數ヲ示ス「左ノ如シ

家屋

門窓

千八百二十二年	六、三四一、三七三	三四、一九一、八二一
千八百三十一年	六、六七七、一一一	三六、三四三、六二五
千八百三十六年	六、八〇五、四〇二	三七、二五三、八五九
千八百六十六年	七、八一七、四九一	
千八百七十二年	七、七〇四、九一三	

千八百六十六年并ニ千八百七十二年ニ於ル家屋ノ數ハ居住家屋ノミニシテ農工ノ業ニ用フル建物馬車置場商店工場ヲ除ク表中千八百六十六年千八百七十二年ニ於テ門窓ノ數ヲ欠ク又千八百

六十六年千八百七十二年ノ間ニ於テ「アルサ」スロレーン二州ヲ失ヒ佛國ノ人口ハ四分ヲ減セリト雖該表ニ由ル時ハ家屋ノ減少ハ十萬七千即チ一分三ニ過キス以テ開明社會ニ於テ居住ノ安寧康福日ニ上進發達シ家屋ノ數年ニ増加スルヲ見ルヘシ近年ノ景况ヲ知ルニ由ナシト雖左ノ表ニ據リテ各級ノ家屋増減ノ景况ヲ見レハ一二箇ノ門窓ヲ有スル所ノ家屋ハ年ニ減シ三箇以上五箇ノ門窓ヲ有スル者ハ少シク増減シ上級ニ屬スル家屋ハ最モ増加ノ大ナルヲ証スルニ足ラン由是觀之ハ民富日ニ増加シ該稅ノ負擔重キニ過サレハ被稅者ヲシテ窓數ヲ減シテ清氣光明ヲ拒絕セシムルニ足ラサルヲ知ルヘシ

千八百三十七年	千八百四十六年	増減
門窓一箇ノ家屋	三四六、四〇一	三一三、六九一
		減
		九分

門窓二箇ノ家屋	一、八一七、三三八	一、八〇五、四二二	減	〇分六
門窓三箇ノ家屋	一、三二〇、九三七	一、四三三、六四二	増	八分五
門窓四箇ノ家屋	八八四、〇六一	九九六、三四八	増	一割二分六
門窓五箇ノ家屋	五八三、〇二六	六九二、六八五	増	一割八分八
門窓六箇以上	一、八四六、三九八	二、二二〇、七五七	増	二割〇分二
總計	六、七九八、一五一	七、四六二、五四五	増	八分一

表中門窓一箇二箇ノ家屋ハ數ヲ減シ三箇四箇ノ家屋ハ増減セシト雖大ナラス最モ増加セシハ五箇以上ノ家屋ニアリ千八百四十七年以後佛國家屋ノ景況ハ駭ヤトシテ上進セシ者ノ如シ蓋シ當時佛國人民ノ居住セシ家屋ハ頗ル鄙賤ナル者ニシテ國中家屋ノ半ハ多キモ門窓三箇ニ過キス即チ一家二室ニ過キサリシ者ナリ然ルニ國民ノ半數ハ斯ノ如キ小舎茅屋ニ住セリト云フニアラス如何トナレハ高樓巨室ハ自

ラ之ニ住スル者多ケレハナリ

千八百三十七年ノ調査ニ據レハ門窓ノ數三千六百九十八萬二百七十八箇ナリ之ヲ以テ家屋ノ數六百七十九萬八千五百一十一ニ平均スレハ一家ニ門窓五箇半ノ割合トナル千八百四十六年ニハ門窓ノ數四千四百二十八萬三千三百六十三箇ニシテ家屋ノ數七百四十六萬二千五百四十五ナリシヲ以テ平均一家ニ六箇ノ門窓ヲ有スル者トナル千八百六十年ニ於テ佛國門窓ノ數ヲ概算シテ五千萬ト稱セリ然レトモ其精確ナルヤ否ヤハ知ルニ由ナシ方今ニ於テハ門窓ノ數ハ凡ソ五千二百三百萬箇ナリト云フモ決シテ過言ニアラサルヘシ然ラハ則チ千八百三十七年以後四割五分ノ増加ヲ致セシ者ナリ顯ミテ人口ノ増加ヲ見レハ同年間ニ僅カニ九分ノ増加ニ過キス

佛國ノ門窓稅ハ正稅副稅共ニ年ニ増加スルヲ以テ上下議院ニ於テハ

數々該税ノ負擔鄉村ニ重ク市府ニ輕キナカラシヤラ論セリ、雖此論
 題タル遂ニ無益ナルカ如シ願ミテ其税率ヲ見レハ邑ノ人口ニ應シテ
 税額ニ多少アリ家屋ノ大小ハ門窓ノ數ニ應シテ之カ階級ヲ定ムル者
 ニシテ二箇乃至四箇ノ門窓ヲ有スル家屋ハ鄉村ニ多ク市街ニ少ナシ
 然ラハ則チ鄉村ノ負擔ハ割合ニ輕シト云ヘシ又何ノ論カ之レアラシ
 其統計ハ舊シト雖千八百三十八年ノ財政要覽ヲ見ルニ門窓税ノ配賦
 ニ關シテ精確ナル形况ヲ示ス

此緊要ナル問題ニ付テハ千八百三十八年以後ノ財政報告中ニ見ル
 所ナシ斯ノ如キ統計ハ少ナクモ十年毎ニハ之ヲ公發スルヲ要ス
 千八百三十七年門窓税ノ收入高ハ二千二百二十一萬五千百三十二ツ
 ランクニシテ其家屋ノ數ハ六百八十三萬二千四百九十七箇被稅者ノ
 數六百九十五萬三千四百十六人ナリ左ノ表ニ據リテ諸邑各級ノ負擔

各家族ノ平均負擔ヲ見ルハシ

正税ノ配賦高 ツランク	人口十萬以上ノ市街	二、五三八、〇九四	人口十萬ノ市街	一、〇七八、九四〇	人口五萬至十萬ノ市街	七五三、六一	人口一萬至五萬ノ市街	一、七八四、八〇五	人口一萬以下ノ市街	一、八三三、八〇〇	人口五千以下ノ郡區	一、三五五、〇三三	合計并ニ平均數	六、八三三、四九七
家屋ノ數	四、五五五、五三	四、九八、九五	一、四三〇、一八〇	一、七二八、八〇五	一、七三二、七六一	二、五三二、九三四	六、三三五、九七一	三、三二一、五三三	六、八三三、四九七					

家族ノ數	平均稅額	一家屋ニ付一家族ニ付
一五〇四四九	五五	フラン
八二八三五	二二	フラン
一四〇七九〇	一八	フラン
二〇四三七五	一〇	フラン
三三一八七五	七	フラン
六〇四三六二	二七	フラン
六九五三三四一六	三	フラン

右ノ表ニ據リテ之ヲ見レハ鄉村ニ於テハ門窓稅ノ負擔甚ダ輕ク居民一口ニ付正稅ノ負擔六十五サンチム副稅ハ國稅地方稅ヲ合セテ凡ソ一フランシニ過キサルナリ

然ルニ該稅ノ賦課ハ甚ダ宜キヲ得サル者ト云ヘシ己ニ論セシカ如ク家賃價格ハ決シテ門窓ノ多少ニ應スル者ニアラス却テ室ノ大小美惡精粗位置ノ良否ニ由リテ家賃價格ヲ異ニスヘシ又佛國ノ制人口五千以下ノ邑ハ其稅率ヲ同フスルヲ以テ鄉村ニ於ケル人口二三千ノ邑モ四千若クハ四千九百ノ人口ヲ有スル市街モ其窓數ヲ同フスル時ハ租稅ノ負擔ヲ異ニセス然ルニ四千若クハ四千九百ノ人口ナル市街ニ於テ門窓八九箇ヲ有スル所ノ家屋ハ其價格ノ大ナル鄉村ニ於テ同數ノ門窓ヲ有スル家屋ニ勝ルヤ明カナリ況ヤ其家屋市街ノ中央ニ位スル時ニ於テヲ然ラハ則チ假令ヒ負擔ニ大不平均ナケレハ足ルトナス

モ二千乃至五千ノ人口ヲ以テ密接ニ建築セル所ノ家屋ハ別ニ分テ一級トナサ、ルヘカラス

又門窓五箇ヨリ十箇ニ至ルマテノ家屋ヲ以テ別ニ一級トナスヘシ方今ノ法律ハ五箇以上ノ門窓ヲ有スル者ハ概シテ一様ニ見做スト雖門窓ノ數五箇ヨリ十箇ニ至ル迄ノ家屋ハ價格ノ大ナル者ニアラス門窓十八箇ヲ有スル家屋ノ家賃ハ其數六箇ヲ有スル家屋ノ家賃ノ三倍ニ超ユルカ如シ故ニ該稅累進ノ階級ヲ増加スルヲ良シトス然リト雖直チニ家賃ノ價格ニ應シテ租稅ヲ課セハ容易ナルヘキニ何ヲ苦ンテカ漠然タル家賃ノ標示ニ據ルヲ要センヤ

元來政府ノ意ハ家屋ノ借主ヲシテ門窓稅ヲ負擔セシメント欲スルモノニシテ家主ヲシテ該稅ヲ納メシムルハ徵收ノ便ヲ計ルニ出ル者ナリ家主若クハ上借人等ハ家賃ヲ増シテ償ヲ家屋ノ借用者ニ取ル者ト

ス家主カ少シク自ラ負擔スル所ノ門窓稅ハ只特ニ共用ノ門窓ニアリ門窓稅ノ實際負擔ノ歸スル處ハ尙家屋稅ニ於ケルカ如ク場合ニ應シテ之ヲ異ニスヘシ其負擔ハ通例家屋ノ借主ニ歸スヘシ即チ富人口營業日ニ發達進歩スル所ノ地方ニ於テ新家屋ノ需要盛ナレハ該稅ヲ負擔スル者ハ家屋ノ借主ニアリ家主カ該稅ノ全額若クハ其一部ヲ負擔セサルヘカラサルハ特ニ其地方ノ富衰ヘ人口減少スル時ニアリスノ如キ場合ニ於テハ貸家ノ數需要ニ超ユルヲ以テ時トシテハ政府カ租稅ヲ増加スルニ當リテ家主ハ家賃ヲ減セサルヘカラサルコアリ然リト雖斯ノ如キハ稀有ノ形情ニシテ且ツ暫時ノ間ニ過キサルモノナリ凡ソ門窓稅ハ決シテ平均ヲ得ルモノニアラス而シテ家屋稅若クハ動產稅ヲ復課スル者ト云フヘキナリ然ルニ家屋若クハ居住ニ租稅ヲ課セント欲セハ家賃ニ基クニ如クハナシ家賃ハ之ヲ知ルニ易シ又曖昧

タル標示ニ取ルヲ待タサルナリ是故ニ門窓税ヲ廢シテ家屋税若クハ
動産税ニ加ヘテ其不足ヲ償ハ、税法ノ一改良ト云ヘシ彼ノシヤルワ
ヤ氏カ以太利ノ大藏卿タルニ當リ國會ヲシテ門窓税ヲ廢セシメシハ
實ニ卓見ト云ヘシ烟筒税ニ於ケルモ門窓税ヲ以テ此ニ論スル所ニ異
ナルモノナレ

次テ余輩ハ直税ノ中ニ於テ最モ取ルヘキ一税ナル居住ノ家賃ニ課ス
ル所ノ者即チ家賃税ヲ論セン佛國ニ於テ之ニ附スルニ動産税ノ名ヲ
以テスルハ不當モ亦甚シト云ヘシ政府ハ一舉シテ平等ニ被税者ノ歲
入ニ租税ヲ課スルヲ能ハサルニ當リ臆測ヲ以テ之ヲ賦課スルヲ欲セ
ス去リトテ人民ノ申告ニ信ヲ置ク能ハサレハ居住ノ家賃ニ應シテ租
税ヲ課スレハ最モ能ク其財力ニ比例スルヲ得ヘキモノトス如何トナ
レハ家賃ノ多少ハ最モ能ク財產若クハ歲入ノ多少ヲ表スル者ナレハ

ナリ方今佛國ノ社會ハ居住ノ安息外見ノ驕侈ヲ飾ルヲ好ムノ風アリ
故ニ財力アル者ハ必ス先ツ家屋ヲ壯大ニシ居室ヲ修飾スルヲ以テ常
トナス

該税ニ抗スル者ハ通例資本若クハ歲入ノ單稅論者ニシテ此輩ト雖一
說ナキニアラス共言ニ曰ク衆人ノ中或ハ其嗜好若クハ家族ノ都合若
クハ職業ノ性質ニヨリテ家賃ニ費ヤス所割合ニ多キ者アリ或ハ居住
ノ卑陋ナルヲ厭ハサルカ若クハ節儉ヲカムルヨリ歲入ノ一小部分ヲ
以テ家賃ニ供スル者アリ然ラハ甲某ノ負擔ハ重キニ過キ乙某ハ殆ト
租税ヲ免ルノ效驗アラント

右ノ說ハ家賃税ト雖到底平均ヲ得ヘカラサルモノニシテ財政ノ完全
無缺ヲ望ム者ハ只ニ想像ニ過キサル者トナシ該税ヲ擯斥シ得ルヲ說
キ一見頗ル理アルカ如シト雖適切ナリト云ヒ難シ若シ家賃ニ由テ歲

入ヲ推定スルニ實際被稅者ノ歲入ハ之ニ及ハサルコトアレハ彼ヲシテ其不當ヲ証明スルヲ得セシムヘシ何ノ不可ナルコトカ之レアラン醫師代言人ノ如キ職業ノ爲メニ割合ニ家賃ニ費ス所多キ者ハ幾許カ稅率ヲ減シテ之ヲ課スルヲ得ヘシ然ルニ一般ノ稅率ヲ輕フセハ斯ノ如キ輕減法ヲ行ハサルモ可ナルヘレ

月行キ星移ルニ從テ被稅者皆租稅ヲ願ミテ各々居住ヲ定メ自カラ其費ス所ノ家賃ト得ル所ノ歲入ノ割合ハ政府カ定ムル所ノ割合ト均シキニ歸スヘシ只外節ヲ事トスル者若シハ不注意ナル者ハ財力不相應ノ租稅ヲ拂フコトアルヘシ又吝嗇家アリテ非常ニ家賃ヲ節減シ租稅ノ一部分ヲ避ケンコトヲ力メハ政府ハ此輩ヲ如何トモスルコト能ハサルヘシ然リト雖此事タル非常ノ場合ニシテ歲入稅ノ法ニ於テハ被稅者ノ申告ニ由ルモ政府ノ鑒定ニ由ルモ皆免レサル所ノ者ナリ如何トナレ

ハ世ニハ數個ノ吝嗇家アリテ常ニ租稅ヲ避ンコトヲ計ルヲ以テナリ又如此ク居住ヲ節減シテ家賃稅ノ一部ヲ免ルモ早晚政府ノ徵收ヲ免レサルヘク又其家賃ニ於テ節減スル所ハ之ヲ貯蓄スヘキカ故ニ政府カ之ニ稅セサルハ貯蓄ヲ愛護獎勵スル者トモ云ヘシ加フルニ又遺傳稅ノ法アルヲ以テ是等ノ吝嗇家ノ歲入ハ年毎ニ一小部ヲ徵收セスト雖之ヲ貯蓄シタル後其死スルノ日ニ於テ一時ニ之ヲ徵收スルノ實アリ然レトモ其割合ハ少ク輕カルヘシ假令ヒ是等ノ事アルモ實際ニ於テ政府ノ失フ所ハ甚々小ナルヘシ

家賃稅ハ多數ノ家族ヲ有スル者ニ重ク少數ノ家族ヲ有スル者ニ輕シト云フニ至リテハ稍々力アルカ如シ然ルニ家族多キ者ハ政府ノ恩惠保護ヲ被ルコトハ自ラ多カルヘシ家族多キカ爲メニ租稅ノ負擔重キハ何ソ獨リ家賃稅ニ於ケルノミナラン百般ノ消費稅ニ於ケルモ亦均ク

然リ只ニ一般ノ歳入税若クハ資本税ニ於テ云ハカラサル者ト知ルヘシ或ハ云シ假令ヒ一市街中ニ於テモ只ニ居住ノ形状ヲ節減スルノミナラス位置ヲ變ヘ若クハ層ヲ更メハ敢テ衛生上ニ妨クルヲナクシテ數々家賃ヲ減シ從テ家賃税ヲ減スルヲ得ヘシト曰ク然リ此ヲタル或ル場合ニ於テハ行フヲ得ヘシト雖之ヲ以テ一般ニ適用スヘカラス例ヘハ夥多ノ家族ヲ有スル者已ニ市街ノ最モ隔リタル場處ニ住レ最上階ノ室ニ居ル時ハ同地同層ニ住シテ家族ノ少ナキカ爲メニ多數ノ居室ヲ要セサル者ニ比スレハ此輩ノ負擔ハ重カルヘシ然ラハ則チ之ヲ避クルノ法如何曰ク何ツ家族ノ數ヲ計リテ税率ヲ定メサルヤ凡ソ獨身妻ナキ者ノ家賃税ハ家族ヲ有スル者ヨリ少ク重キモ可ナリ故ニ税率ヲ定ムルニ幼兒ノ數ニ應シテ之ヲ減スヘシ例ヘハ妻ナキ者ニ家賃税トシテ家賃ノ一割二分ヲ課セハ家族ヲ有スル者ニハ一割ヲ課シ

而シテ幼兒ノ兩親ト住スル者アレハ一人毎ニ一分ヲ減シ幼兒四人アリトスレハ四分ヲ減シテ家賃ノ六分ヲ課スルトセハ可ナラン之ヲ實行スルヲ敢テ難キコアラヌ又此輕減法ハ富民ニ施コサ、ルモ可ナリ例ヘハ其土地ノ人口ニ應シテ千五百フランク若クハ三千フランク以上ノ家賃ハ更ニ輕減法ヲ行ハサル者トナスカ如シ家賃税ニ於ケル一他ノ利ハ該税ハ概シテ自ラ永世ノ歳入ト一時ノ歳入ノ負擔ヲ區別スルニアリ元來租税ハ國民ノ歳入ニ比例セサルヘカラスト雖一生ノ歳入若クハ一時ノ歳入ハ永世ノ歳入ニ比スレハ輕課セサルヘカラサル者ナリ然ルニ之ヲ實施スルニ至リテハ尙租税ヲシテ偏重ナカラシメント欲スト一班コシテ頗ル難シ家賃税ニ至リテハカメスレテ自ラ輕重宜キヲ得ルノ大利アリ實ニ職業勞力ヲ以テ一生若クハ一時ノ歳入ヲ有スル者ハ其家賃ニ費ヤス所ノ歳入ノ部分ハ土

地或ハ公債証書ノ如キ者ヲ有シテ永世ノ歳入ヲ有スル者カ家賃ニ費
 ス所ノ部分ヨリ小ナルヲ常トス例ヘハ甲某ハ毫モ資本ヲ有セス或ハ
 之レアルモ僅小ノ資本ニシテ勞働ヲ以テ毎年四萬フランクヲ得乙某
 ハ財産家ニシテ坐ナカラ年ニ四萬フランクヲ得ハ甲某カ居住ノ形状
 ハ必ス乙某ニ及ハサルヘシ如何トナレハ甲某ハ貯蓄ヲ力メサルヘカ
 ラサルコト乙某ヨリ大ナルヲ以テ歳入ノ一部ヲ貯蓄ニ宛ツレハナリ斯
 ノ如キ場合ニ於テハ甲乙共ニ四萬フランクノ歳入ヲ有スト雖其歳入
 ノ性質ニヨリ家賃税ノ負擔ヲ異ニスヘシ若シ一生若シハ一時ノ歳入
 ヲ有シテ永世ノ歳入ヲ有スル所ノ隣人ト居住ノ形状ヲ同フシ家賃ニ
 費スト異ナルナケレハ是レ輕浮ナリ淺慮ナリ何ノ功カ之レ有ラン負
 擔ノ重キヲ訴フヘキニアラサルナリ斯ノ如キ場合ニ於テ租税ノ重キ
 ハ一種ノ罰金ト稱スルモ可ナルヘシ

千七百九十一年ニ於テ委員惣會ノ行ヘルカ如ク家賃税ニ加フルニ馬
 車奴婢ノ如キ簡易ナル驕奢物ニ課スル所ノ租税ヲ以テスルモ可ナル
 ヘシ(該税ノ得失ハ別ニ後篇ニ於テ論スル所アラントス)該税ヲ以テ家
 賃税ニ附屬セシムルニ當リテハ奴婢ノ數車馬ノ數ニ應シテ家賃税率
 ヲ増加セハ可ナラン例ヘハ被稅者カ車馬ヲ有スル時ハ家賃税率一割
 ヲ増シ奴婢一人毎ニ五分ヲ加フルカ如キ是ナリ然ルニ此法タル繁雜
 繞密ヲ免レサル者ニシテ余輩ハ進テ主張スル者ニアラス然リト雖歲
 入税甚々重フシテ被稅者ノ申告若クハ政府ノ鑒定ヲ以テスレハ臆測
 ノ弊アリ蔽匿ノ恐レアルニ當リ間税ヲ減セント欲セハ方今佛國社會
 ノ形況ニ於テハ是等ノ如キハ最モ能ク人民ノ歳入若クハ財産ヲ表ス
 ル者ナルカ故ニ驕奢物ノ税ヲ以テ家賃税ニ加フルモ敢テ不可ナルコ
 ナカルヘシ

抑家賃税ハ上下ノ別ナク一般ニ之ヲ課シ税率ヲ平等ニスヘキヤ否ヤニ於テ世ノ論題ヲ免レス元來佛國ノ大府ニ於テハ小歳入ハ動産税ヲ免除スルノ習慣ニシテ巴里府ノ如キハ四百フランク以下ノ歳入ハ該税ヲ除ク者トス其説ニ曰ク小歳入ヲ有スル者ハ間税ノ負擔重シ故ニ之ヲ償補スル者ナリト其言實ニ理アリ然ルニ余以爲ラク家賃ニ課スル所ノ直税ハ之ヲ課スル簡ニシテ之ヲ徵收スルニ易シ故ニ舉テ之ヲ免除スルハ敢テ好ム所ニアラス寧ロ動産税即チ家賃税ヲ課シテ間税ノ最モ害多ク最モ重キ者即チ葡萄酒税林檎酒税麥酒税ノ如キヲ廢スルニ如カス

家賃税ヲ課スルハ必スシモ上下ノ税率ヲ一ニセスレテ可ナリ家賃ノ等級ニ應シテ之ヲ課スルハ却テ當然ナルヘシ該税ヲ課スルニ家屬ノ數ニ應シテ加減ヲ行フノ要用ナルハ既ニ前章ニ示スカ如シ或ハ云フ

小歳入ヲ有スル者ハ家賃ノ爲メニ費ス所ノ者巨額ノ歳入ヲ有スル者ヨリ大ナルモノトス例ヘハ勞力者ノ家族アル者ハ一ケ年僅ニ千八百フランクノ歳入ヲ有シテ三百フランクヲ以テ家賃ニ宛テサルヘカラサル者少カラス然ルニ地主ノ一萬八千フランクヲ有スル者ハ僅ニ千八百若クハ二千フランクヲ以テ家賃ニ供シ一家三萬六千フランクヲ有シテ三千若クハ四千フランクヲ以テ家賃ニ費ス者アリト曰ク然リ其言ハ概シテ虚ナラス然ルニ之ヲ以テ百般ノ場合ニ言フヘカラサルモノアリ實ニ巨大ノ歳入ヲ有スル者ニ至リテハ家賃ニ費ス所ノ歳入ノ部分數々大ニシテハ中等ノ民時トシテハ下民カ費ス所ノ割合ニモ超ユルヲアリ即チ十五萬若クハ二十萬フランクノ歳入ヲ有スル者ハ大都會殊ニ巴里府ニ於テハ通例四萬若クハ五萬フランクノ家賃價格ヲ有スル所ノ巨額ニ住シ時トシテハ之ニ加フルニ四千若クハ五千フ

ランクノ家賃價格ナル村莊ヲ有スル者アリ元來巨大ノ歳入ヲ有スル者ハ其居ノ市府ト鄉村トヲ問ハス家賃ノ爲メニ歳入ノ五分ノ一四分ノ一甚キハ三分ノ一ヲ費ス者少カラス

方今ハ常居ノ家ヲ有シ別ニ村莊ヲ持スルノ風日ニ盛ニシテ八萬フランク以上ノ歳入ヲ有スル者皆多クハ別莊ヲ有シ其家賃ノ爲メニ費ス所ノ歳入ノ部分大ニシテ一萬五千フランク乃至三萬フランクノ歳入ヲ有スル者ニ勝ル

斯ノ如キ景况アレハトテ巨額ノ歳入ヲ有スル者ニハ家賃稅率ヲ輕減スヘキノ理ナシト雖亦累進ヲ急ニシテ比例ヲ失ヒ實際歳入ノ大部分ヲ徵收スルカ如キニ至ルヘカラス若レ能ク其實況ヲ計リ累進ニ制限ヲ置カハ敢テ大害ナカルヘシ若シ之カ爲メニ大歳入ノ負擔ヲシテ割合ニ重カラシメハ是レ中等以下ノ歳入ハ間稅ノ負擔割合ニ重ク大歳

入ノ負擔輕キカ爲メノ償補ト稱センノミ

由是觀之ハ家賃稅ニ於テハ累進稅ノ形ヲ用フルハ可ナリ然リト雖其要スル所ハ階級ヲ少フスルニアリ例ヘハ六百フランク以下ノ家賃ハ其六分ヲ課シ六百フランクヨリ千二百フランクニ至ル迄ハ八分千二百フランクヨリ二千フランクニ至ル迄ハ一分二割二千フランク以上ハ一分五割五分ヲ課スルカ如キ是ナリ二千フランク以上ニ至リテハ之ヲ累進スルニ至當ノ理ヲ見サルナリ如何トナレハ二千フランク以上ニ至リテハ家賃ニ宛ル所ノ歳入ノ部分減セスシテ却テ屢々増加スルヲ以テナリ

此ニ論スル所ヲ以テ之ヲ見レハ家賃稅即チ佛國ニ於テ動產稅ト稱スル所ノ者ハ佛國稅中ノ最良ナル一稅ト云ハサルヘカラス勿論之ヲ稱シテ完全ナリト云フヲ得スト雖該稅ハ以テ大ニ歳入ノ多少否ナ國民

ノ財力ニ比例スルヲ得ヘキ者ナリ臆測專斷ノ弊ヲ避クル者ナリ又大ニ收入ヲ得ヘキ者ナリ余輩ハ前章ニ於テ已ニ佛國建物ノ家賃價格ヲ算定シテ凡ソ二十億フランクトセリ然ルニ製造所商店ノ家賃價格ヲ減除セサルヘカラサルヲ以テ之ヲ減スルモ居住家屋ノ家賃價格ハ十六億フランクヲ下ラサレヘシ國稅地方稅ヲ合セテ之ニ課スルニ一割ヲ以テセハ一億六千萬フランクヲ得ヘシ然ルニ方今ノ動產稅收入高ハ分頭稅ノ收入高ヲ除キ正稅副稅ヲ合セテ僅カニ凡ソ九千萬フランクニ過キサルナリ

已ニ前章ニ論セシ如ク家屋稅ハ正稅副稅ヲ合セテ一割五分ヲ課スレハ三億フランクノ收入ヲ得ヘキナリ

本文ニ正副二稅ヲ合セテ一割五分ヲ課スルト云フハ只平均稅率ヲ云フノミ如何トナレハ副稅ハ經費ノ多少ニ由テ各地方同一ナラサ

ルハ自然ノ勢ナレハナリ

動產稅ハ平均一割ヲ課シテ一億六千萬フランクヲ得ヘシ然ラハ則チ家屋稅家賃稅ヲ合セテ四億六千萬フランクヲ得ヘシ方今ノ地租ハ家屋ヨリ徵收スル部分正稅副稅ヲ合セテ國稅四千九百萬フランクアリ地方副稅ノ額ハ之ニ倍ストナスモ佛國ノ地租ニシテ家屋ヨリ徵收スル所ハ九千八百萬フランクニ過キズ又門窓稅ハ國稅地方稅ノ收入ヲ合セテ六千三百萬フランク動產稅ハ分頭稅ノ收入高ヲ減シテ正稅副稅ヲ合セ九千萬フランクヲ收入ス故ニ三稅ノ收入ヲ合セテ二億五千萬フランクヲ得ヘシ然ルニ今余輩カ計畫スル所ニ從カヘハ四億六千萬フランクヲ得ヘシ即チ二億九百萬フランクノ増加ニシテ方今市門稅ノ收入高ニ超ユル者ナリ然ハ則チ若シ佛國ニ於テ分頭稅ヲシテ勞銀ノ増加ニ應シテ稅率ヲ増加セシメ且ツ少シシ他ノ諸稅ヲ改正セ

ハ入市税及ヒ中央政府ノ葡萄酒税林檎酒税梨酒税ハ殆ト全廢スルヲ得ヘシ
 或ハ云ン斯ノ如クスル時ハ家賃ノ負擔重キニ過キヤン如何トナレハ已ニ家屋税トシテ家賃ノ價格ニ一割五分ヲ課シ家主ヲシテ之ヲ拂ハレムルモ實際之ヲ拂フハ多クハ家屋ノ借主ニアリ而シテ又家賃税トシテ平均一割ヲ以テ直接ニ借主ニ課シ遂ニ借主ノ負擔ハ二割五分トナルヘケレハナリト曰ク然リ余輩モ亦敢テ重カラスト云フニアラスト雖重キニ過クト云ヘカラス其家賃税即チ動産税ト稱シテ直ニ借主ニ課スル所ノ者ハ下民ニ輕ク家族多キ者ニ減レ富民ニ至リテハ増シテ一割五分ヲ課スルヲ以テ家屋税ノ負擔ヲ加フレハ壯麗ナル居室ニ住スル者ハ家賃價格ノ三割ヲ拂フニ至ルヘシ然ルニ余輩ヲ以テ之ヲ見レハ三割ノ負擔ハ敢テ堪ヘ難キノ負擔ニアラサルヘシ合衆國ノ諸州

ノ如キハ之ニ超ユル者少ナカラス試ニ全國ノ人民カ家賃ニ給スル所ノ歳入ノ部分ハ全歳入ノ八分ノ一ニ居ルトセハ三割ノ家屋税家賃税ハ歳入ノ三分七五ニ過キス然ルニ實際ニ於テハ家賃ニ宛ル者多クハ皆歳入ノ八分ノ一ニ達セサルヲ余輩ハ佛國居住家屋ノ家賃價格ヲ(製造所商店ノ家賃價格ヲ除キ)算シテ十六億フランクト稱セリ而シテ佛國人民歳入ノ全額ハ二百億フランクトニ過クルヲ以テ之ヲ見レハ佛國人民カ居住ノ家賃ニ費スル所ハ平均歳入ノ百分ノ八ニ過キサルナリ故ニ家屋税家賃税トシテ家賃價格ノ三割ヲ課スルモ平均僅ニ被稅者歳入ノ二分四ニ過キス加フルニ家屋税ハ一割五分トナセリト雖家賃税ニ至リテハ平均僅ニ一割ニシテ一割五分ヲ課スルハ獨リ富民ニアルニ於テヲヤ
 家屋家賃ノ二税ハ共ニ家賃價格ニ賦課スル者ニシテ前章ニ述ルカ如

ク二税兩ツナカラ借主ノ負擔ニ歸スルヲ通規トナス、雖之ヲ徵收スルニ至リテハ明カニ之カ別ヲナシ相混セサルヲ要ス判然二税ノ別ヲナス時ハ一ハ家主ニ直課シテ間接ニ借主ニ負擔セシメ一ハ借主ニ直課スルヲ以テ收入ヲ得易ク外形ニ於テ公平ナルカ如ク人心ヲ激動スルヲ少カルヘシ一人ニシテ家主借主ヲ兼ヌル時例ヘハ都會ニ於テ貴重ナル巨館ヲ有シ自ラ之ニ住スル者ノ如キハ家屋稅家賃稅共ニ一身ニ集リ家賃價格ノ三割ヲ拂フヲ以テ負擔少シク重キノ思ヒアルヘシ即チ其價格五十萬フランクノ巨館ヲ有シテ之ニ住スル者ハ家賃價格凡ソ二萬フランク(元來家賃ニ實際ノ家賃アリ金額上ノ家賃アリ實際ノ家賃ハ家屋ノ修繕保存費ヲ減スヘキカ故ニ金額上ノ家賃ニ比スレハ常ニ凡ソ五分ノ一ヲ減スル者トス故ニ五十萬フランクノ家屋ノ家賃ハ凡ソ二萬フランクトナル)ナルヘキヲ以テ毎年凡ソ六千フランク

ノ租稅ヲ拂フヘシ八十萬フランクノ巨館ニシテ家賃價格三萬フランク若クハ三萬五千フランクナル者ヲ有シ自ラ之ニ住スル者ハ毎年九千フランク若クハ一萬五千フランクノ租稅ヲ負擔スヘシ豈ニ重シト云ハサルヘケンヤ然ルニ若シ入市稅ヲ廢セハ決シテ堪ヘ難キノ稅ニアラサルヘシ

余輩ハ此ニ於テ將來ヲ計畫スルヲ止メ鋒ヲ轉シテ現今既往ノ制度ヲ講究セン佛國ノ動產稅ハ其實家賃稅ニシテ源ヲ革命政府ノ動產稅ニ發ス當時ノ動產稅ハ頗ル大ナル者ニテアリシ彼ノ委員總會ハ初メテ適理公正ノ財政制度ヲ立テ後世ノ標準トナリ而シテ其制タル被稅者ヲシテ其負擔ヲ知ルニ容易ナラシムル者ト云ヘシ該總會ハ一切内地ノ消費稅ヲ廢シ記録稅ノ外只直稅及ヒ輸入稅ヲ存セシノミ該制ヲ定ムルニ當リテヤ委員總會ハ特ニ強剝若クハ臆

測ノ性質アル者ヲ廢センコトヲカメリ此事タル以テ當時ノ思想ヲ証明
 スル者ト云ヘシ舊政法ニ於テハ人民ノ自由内政ノ獨立ヲ願ヨルコト薄
 キヲ以テ委員總會ハ深ク其弊制ヲ矯正シ政府カ國民ノ私事ニ干涉ス
 ルノ害ヲ除キ寧ロ直税ノ配賦ニ於テ多少不平均アルモ一家一人ノ事
 ニ干涉シ若クハ牽制セサランコトヲ欲セリ之ヲ以テ國民ノ財產若クハ
 歳入ニ關シテ被稅者ノ申告若クハ政府ノ調査ニ由テ租稅ヲ徵課スル
 ノ制ハ一切之ヲ廢セリ

委員總會ハ官吏人民ノ間ニ爭議ヲ生セステ國民ノ歳入ヲ推定セン
 コトヲ欲シ其最モ實際ノ價格ヲ表スル者ヲ取リテ之カ探準トセリ
 全國ノ不動産ハ其歳入ノ六分一ヲ徵收スヘキ者トナシ不動産ノ歳入
 ヲ算定シテ十四億四千萬フランクトナシ二億四千萬フランクヲ徵收
 セリ

千八百七十六年レオンセー氏ノ地租原簿ニ關セル立案ニ據レハ千
 七百九十一年ニ算定セシ不動産ノ歳入ハ十四億四千萬フランクニ
 シテ之ニ課スルニ地租正稅一割六分六六ヲ以テセリト諸ノ財政書
 中ニ見ルカ如ク二割ヲ以テセス其二割ニ達セシハ地方稅トシテ課
 シタル副稅五スーヲ加フルニ由ル

不動産ニ於テハ六千萬フランクノ收入ヲ得ンコトヲ欲シテ頗ル繞密ナル
 不動産稅ノ法ヲ設置セリ上ニ舉クル所ノ二數ハ獨リ正稅ニシテ地方費
 ノ爲メニ副稅ヲ加フル時ハ之ヲ増加スル者ト知ルヘシ不動産ニ課スル
 ニ僅カニ六千萬フランクヲ以テシ土地ニ二億四千萬フランクヲ以テ
 セシハ土地カ舊政ノ下ニアリテ負擔セシ所ノ租稅ヲ免ルヘキヲ以テ
 斯ノ如ク兩財產價格ノ比例ヲ定メシニ外ナラス

委員總會ハ以爲ク不動産ノ歳入ニ租稅ヲ課スルハ家賃ノ多少ニ由ルコ

如クハナレ其言ヤ當レリト云ヘレ衆皆常ニ以爲ク下民カ家賃ニ費ス所ノ割合ハ富民ヨリ大ナリト委員總會モ亦之ヲ以テ家賃ノ多少ニ應シテ歳入ノ價格ヲ推定シ動産歳入ノ負擔ヲレテ不平均ナカラシメンコトヲ計レリ其法タル百フランクノ家賃ヲ拂フ者ハ其歳入之ニ倍スル者トシ百一フランクヨリ五百フランクニ至ル迄ノ家賃ハ之ニ三倍ノ歳入ヲ有スルコトヲ表シ五百一フランクヨリ千フランクニ至ル迄ハ四倍ノ歳入ヲ有スル者トシ家賃ノ多キニ從テ歳入ノ割合ヲ増シ一萬二千フランク以上ニ至リテハ非常ニ増加シ是等ノ家賃ヲ拂フ者ハ其十二倍ノ歳入ヲ有スル者トセリ

八十五年前ニアリテハ家賃ト歳入ノ比例ハ果シテ如此クナリシヤ其精確ナルヲ知ルヲ得スト雖方今ニ於テハ斯ノ如クナラス殊ニ巨大ノ家賃ト歳入ニ於テ最モ其比例ヲ得ス該税ハ家賃ノ大小ニ從テ稅率ヲ

異ニシ其大ナル者ニ多ク小ナル者ニ少ナキカ故ニ外形ニ於テハ累進稅ナリ然ルニ其意タルヤ比例稅ニシテ上下ノ歳入ヲレテ悉ク負擔ヲ均フセシメント欲スルニアリ只其階級ヲ定ムルニ當リテ家賃ト歳入ノ比例相適セスシテ最小最大ノ點ニ於テ甚タ其當ヲ失ヒ家賃ノ小ナル者ハ歳入ノ割合小ニ過キ家賃ノ大ナル者ハ歳入ノ割合大ニ過キタリ

委員總會ニ於テ定メタル動産稅ハ三種ノ稅ヲ以テ成レリ第一コートダビタシオント稱シ右ニ述フル所ノ方法ニ從ヒ家賃ニ基キテ推定セル歳入ニ課スル者第二窮民ノ外一般ノ國民ニ課スル所ノ勞力三日ノ價ニ均キ者第三僕婢ノ數ニ從テ課スル者私用馬ノ數ニ從テ課スル者是ナリ

右ノ動産稅ハ頗ル奇巧ナル者ニレテ專ラ動産ノ歳入ニ課センカ爲メ

ニ已ニ地租ヲ拂ヒシ者ハ家賃ニ由テ推定セシ歳入ヨリ其土地ノ歳入ヲ減除セリ例ヘハ甲某アリ其居住セル家屋ノ家賃ニ由リ歳入額二萬フランクト定メ之ニ税スルニ當リ若シ某ハ已ニ一萬フランクノ歳入ニ地租ヲ拂ヒシト明瞭ナレハ其額ヲ減シテ餘ノ一萬フランクニノモ動産税ヲ拂ヒ税額ハ歳入ノ二十分ノ一トナス

斯ノ如ク動産税ノ法ハ奇巧ナリシト雖其功ヲ全フスルヲ得サリシ者ハ他ナシ階級ヲ定ムルニ歳入ト家賃ノ比例當然ナラス徵收法ハ配賦法ニシテ不便ヲ免レス又騒亂ノ時ニ際シテ政府ノ基礎數々動キ執事者事ニ習練セサルニ當リテハ少シク該法ノ繞密ニ過キタルニ由ル爾後動産税ノ制ハ數々變シ遂ニ其初メ制定セル家賃ノ多少及ヒ他ノ証表ニ據リテ推定セル動産ノ歳入ニ課スル所ノ租税タル性質ヲ失フニ至レリ

千七百九十一年始テ動産税ノ法ヲ定メ革命ノ第三年ニ至リ少シク改革ヲナシ僕婢税馬税ニ加フルニ烟筒税馬車税ヲ以テセリ然ルニ是等ノ驕奢税ハ收入甚タ少ナク最大收入額實ニ二百フランクニ過キサリシ千八百六年四月二十四日ノ條例ヲ以テ是等ノ諸税ヲ廢シ獨リ分頭税(三日ノ勞力及ヒ動産税(家賃税)ヲ存セリ

革命ノ亂ニ當リ右ノ分頭税家賃税ハ動産税ノ一部分ニシテ國民ノ歳入ヲ強剝スル者トナリ大ニ初年設置ノ意ニ背戻セリ

革命ノ第三年十一月七日ノ條例ヲ以テ分頭税ヲ増シテ五フランクトナレ第五年十一月十四日後ハ累進法ノ分頭税トナシ三十フランクヨリ百二十フランクニ昇降シ各邑ノ審査員其階級ヲ定ムル者トセリ然ルニ第六年十二月二十六日ノ條例ヲ以テ再ヒ三日ノ勞力ニ復シ一日勞力ノ價五十サンチムヨリ少ナカラス一フランク五十サンチムヨリ

多カラサル者トセリ

第五年十一月十四日ノ條例ハ分頭税ヲ以テ累進法トナシ動産税配賦ノ權ヲ以テ一ニ各邑ノ審査員ニ委シ之ヲシテ各被稅者カ負擔スヘキ額ヲ定メシメタリ故ニ各邑適宜ノ處分ヲナシ一定不動ノ基礎ナカリシ第七年四月三日ノ條例ヲ以テ凡ソ分頭税動産税ヲ配賦スルハ各邑ノ負擔額ヨリ分頭税ノ收入高ヲ減シ餘ヲ以テ動産税ニ課シ已ニ分頭税ヲ負擔セシ所ノ居民ノ家賃ニ應シテ配課スヘキ者トセリ該制タル委員總會ノ制ニ反シ家賃ノ多少ニ從テ歲入ヲ定ムル所ノ累進階級ヲ廢シ又被稅者ノ歲入ヨリ地租ヲ負擔セシ部分ヲ減除セス故ニ當年ノ家賃税ハ委員總會ニ於テ設置セシ家賃税ノ如ク專ラ動産ノ歲入ニ税スル者ニアラサルナリ爾後佛國ノ動産税ハ第七年條例ノ遺意ヲ存シ或ル場合ニ於テハ今日小家賃ノ税ヲ免除シ中家賃ノ負擔ヲ輕減スル

等ノコアリト雖其大体ニ於テハ已ニ純然タル動産税ノ性質ヲ失ヘリ是故ニ動産税ハ其初メ配賦法ニシテ其法タル頗ル不完全ノ制ト云フヘキナリ加フルニ配賦法ハ家賃税ニアリテハ其失蓋シ地租ニ於ケルヨリ甚シ如河トナレハ家賃價格ノ動搖ハ土地ノ價格ヨリ甚シケレハナリ革命ノ時ニ當リテハ財政ノ改正急遽匆卒ニ出テ其配賦ヲナスヤ調査精密ナラス頗ル不平均ノ患ヲ免レス之ヲ以テ千八百二十年ニ於テ諸州ニ於ケル配賦高ノ不平均甚キ者ヲ改正セシコヲカメ同年七月二十三日ノ條例ヲ以テ全佛國居住家屋ノ家賃價格ヲ修正シ諸州ノ負擔ヲ平均スルノミナラス郡邑負擔ノ輕重ヲシテ大異同ナカラシメンコヲ計レリ

右ノ改正ヲ以テ大ニ配賦法ノ過失ヲ示セリ當年ノ調査ニヨレハ五十二州ハ負擔重キニ過キ三十四州ハ負擔輕フシテ僥倖ヲ得タルヲ証

往々不平均ノ甚キ者アリ其營業盛ナル地方ニ於テハ人口ト富ノ發達頗ル盛ニシテ家屋ノ數大ニ増加セリ只ニ其數ヲ増加セシノヨナラス其價格ノ増加ハ益々大ナリトス

デオック氏ハ佛國財政ノ形況ヲ論シ書中千八百五十六年ノ官報ニ就テ珍奇ナル統計表ヲ掲ケタリ其第五表ヲ見ルヘシ該表ニ由レハ千八百五十六年ニ於テ最貧ナル某州ニ於ケル動産稅ノ負擔ハ最富ナル某州ノ負擔ニ倍スルヲ見ルカントル州ノ如キハ算定セラレタル家賃價格百六十一萬三千フランクニシテ動産正稅(分頭稅ヲ除キ)十一萬三千フランク即チ七分ヲ拂ヒコレイズ州ハ家賃價格百六十九萬三千フランクニ動産正稅十萬フランク即チ六分ヲ拂ヒロゼール州ハ家賃價格ハ十一萬九千フランクニ動産正稅四萬フランク即チ凡ソ五分ヲ拂ヒユース州ハ家賃價格二百四十二萬八千フランクニ動産正稅十

五萬七千フランク即チ殆ト七分ヲ拂ヒダールンエガロイン州ハ家賃價格百九十五萬フランクニ動産正稅十六萬フランク即チ八分ヲ拂ヘリ之ニ反シテロイン州ハ家賃價格千六百三十一萬八千フランクニシテ動産正稅(分頭稅ハ常ニ除クモノト知ルヘシ)僅ニ五十六萬三千フランク即チ三分五ヲ拂ヒアールデン州ハ家賃價格五百四十一萬七千フランクニ動産正稅十三萬五千フランク即チ二分五ヲ拂ヘリ全佛國ニ於テ當年ノ動産正稅(分頭稅ヲ除キ)ノ收入高ハ二千二百七十八萬八千フランクニシテ家賃價格ノ總額五億千二百四十九萬四千フランク即チ平均四分四ノ徵收ナリ當時家賃價格ノ算定高ハ遙カニ其實ニ達セサルヤ言ヲ待タス殊ニ人口繁殖セル諸州ヲ甚トス例ヘハノルド州ノ家賃價格ノ如キハ稱レテ僅ニ千八百萬フランクトセリ是レ則チアールデン州ノ家賃價格同表ニ於テ三百十一萬三千フランクトセリノ

六倍ニ過キサル者ト云ヘシ爾後營業ノ盛ナル地方ハ益發達シ山間地方ハ衰フルヲ以テ配賦ノ不平均益甚キハ敢テ疑ヲ容レサルナリ
 千八百二十年ノ調査ニ於テハ毫モ改正ヲ行フテ該稅ノ不平均ヲ修正スルニ至ラスシテ止メリ當時該稅ヲ以テ取分法トナサンコトヲ論セシ者アリト雖之ヲ行フノ難ニアラス之ヲ施コサント欲セハ人心ヲ動搖センコトヲ憚リ遂ニ行ハスシテ止メリ千八百三十年ノ亂後專ラ該稅ノ改正ヲ計リ分頭稅動產稅ヲ分離シテ二ツトトシ分頭稅ヲ以テ取分法トシ動產稅ハ舊ニ依リテ配賦法トセリ蓋シ動產稅モ亦遂ニ取分法トナサント欲セシヤ疑ヲ容レサル所ナリト雖分頭稅ヲ以テ取分法トナシ之カ爲メニ政府ノ收入ヲ増加シ怨言四方ニ起リ議院ハ勇氣甚ク乏シク改革ヲ斷行シテ動產稅ヲ以テ取分法トナス能ハサリシノミナラス改革ヲ中止シ千八百三十二年再ヒ分頭稅ヲ配賦法ニ復シ分頭動產

ノ二稅ヲ合セテ一トセリ同時ニ又負擔最モ重キ五十二州ノ徵收額三百萬フランクヲ減セリ

同年即チ千八百三十二年ニ於テ佛國ノ議院ハ二稅ノ配賦ヲシテ輕重ナカラシメンコトヲ欲シ只ニ三百萬フランクノ減稅ヲナセシノミナラス尙左ノ法ヲ以テ諸州ノ配賦高ヲ増減セリ

千八百三十二年ノ條例ニ據レハ分頭動產二稅ノ總配賦高ヲ三分シ一分ハ千八百三十一年分頭稅ノ取分法タリシニ當リ收入セシ所ノ分頭稅ノ收入高ニ應シテ各州ニ配賦シ一分ハ千八百三十年ノ動產稅配賦高ニ從テ各州ニ配賦シ一分ハ政府ニ於テ調査セル居住家屋ノ家賃價格ニ應シテ配賦スヘシトナセリ

斯ノ如ク稍々配賦高ノ不平均ヲ修正セリト雖政府ノ爲メニハ毫モ收入ヲ増加スルニ足ラス却テ三百萬フランクヲ減セリ勿論議院ハ斯ノ

如ク有名無實ニシテ且ツ國庫ニ利ナキ改革ヲ行フハ其意ニアラサルナリ千八百三十二年四月二十一日ノ條例第三十一條ヲ以テ千八百三十四年ノ國會開議ニ於テ之ヲ議シ爾後五ケ年毎ニ分頭動産稅配賦ノ新案ヲ議スヘシ直稅局ノ吏員ハ被稅者ノ數居住家屋家賃ノ額ニ關シテ調査報告ヲナスヘキ者トセリ

然ルニ千八百三十八年ノ條例ヲ以テ千八百四十二年ノ國會ニ於テ配賦ノ新案ヲ討議シ爾後十年毎ニ之ヲ議スヘシトナシ本條ハ遂ニ之ヲ實行セザリキ千八百三十八年ノ條例ヲ見ルニ定期ノ改正ヲ廢セザリント雖其期年ヲ伸張セシヲ見ルヘシ凡ソ政府タル者財政ノ改革ヲナスニ當リ斯ノ如ク斷行ノ氣ニ乏シケレハ跌倒事ヲ破ルハ敢テ怪シムニ足ラス千八百四十一年配賦ノ改正ヲ行ハント欲シ調査ニ着手セルヤ人心頗ル動搖シ爲メニ政府ハ條例ヲ履行セズシテ空ク手ヲ束子タ

千八百四十六年一月一日以後ハ家屋ヲ取毀ツ時ハ分頭動産ノ正稅配賦高ヨリ其家屋カ負擔セシ額ヲ除キ新タニ家屋ヲ建ル時ハ其家賃價格ニ應レテ州ノ配賦高ヲ增加スヘシトナシ其增加額ハ居住ニ宛タル部分ノ家賃價格二十分ノ一トセリ佛國政府ハ此方法ニ由リテ間接ニ該稅ノ負擔ヲ平均シ又多少屈伸力ヲ副ヘテ年毎ニ收入ヲ増加センコトヲ計レリ千八百四十四年八月九日ノ布達ヲ見ルニ云ヘルアリ曰ク方今某々州ノ負擔ハ該稅率(五分)ニ超エ某々州ハ該稅率ニ及ハス宜ク其割合ニ輕キ者ハ之ヲ増シ重キ者ハ之ヲ減シ全國諸州ノ負擔ヲシテ遂ニ平均セシムヘシ云々

此言ヤ實ニ然リ然リト雖右ノ方法ニ由テ負擔ノ平均ヲ得セシメント欲セハ五十年若クハ百年ヲ要セン實ニ該法ハ家屋ノ新築ニ由テ各州

ノ配賦高ヲ加減スルニ過キスレテ在來家屋ノ家賃價格ヲ變動スルモ
 毫モ其配賦高ヲ動搖セサルヘシ然ハ則チ諸州ノ最モ繁榮ナル者ハ在
 來ノ家賃價格ヲ倍スヘキモ其配賦高ヲ増加セス衰微セル諸州ノ家賃
 價格ハ減少スルモ其配賦高ヲ減セサルヘシ斯ノ如キ方法ニ由ル時ハ
 佛國ノ動産稅ヲシテ輕重偏依ナカラシムルニ至ルハ實ニ測ルヘカラ
 サル歲月ヲ要スヘシ十年若クハ五年毎ニ定期ノ改正ヲ廢シ或ハ取分
 法直稅ハ取分法ヲ措テ又他ニ良法アラシヤテ廢スルハ是レ佛國ノ議
 院ハ不正ニ安シテ改ムルヲカメス又收入ノ増加ヲ計ラサル者ト云
 フヘシ

右ニ述ル所ノ者ハ則チ動産稅條例晚近ノ景況ニシテ分頭動産稅配賦
 ノ諸州ニ於ケル不平均甚ク尙地租配賦ノ輕重偏依アルカ如シ次テ
 諸郡邑各人一個ノ間ニ於ケル配賦ハ如何ニ請フ之ヲ講究セン

先ツ諸郡ノ間ニ於ケル配賦諸邑ノ間ニ於ケル配賦ノ方法ヲ見ルニ又
 大不平均ヲ起スヤ實ニ故アリ諸郡邑ニ配賦ヲナスヤ各州ノ直稅局長
 ハ毎年各郡各邑ノ分頭稅被稅者ノ數及ヒ居住家屋ノ家賃價格ノ額ヲ
 調査シ表ヲ製スヘキ者トス州會郡會ハ其表ニ據リテ該稅ヲ配賦ス其
 次第左ノ如シ

州會ハ先ツ各被稅者ガ負擔スヘキ分頭稅ニ於テ勞力一日ノ價ヲ定ム
 其勞力一日ノ價ハ五十サンチムヨリ少ナカラス一フランシク五十サ
 ンチムヨリ多カラサル者ニシテ州會ハ之ヲ定ムル時ハ其三日分ヲ
 乘シテ惣收入高ヲ算シ然ル後分頭動産稅ノ配賦惣高ヨリ之ヲ減シテ
 殘餘ヲ以テ家賃價格ニ比例シテ動産ニ課ス

右ノ法タル不便モ亦甚シト云ヘシ實ニ州會ハ一フランシク五十サンチ
 ムト五十サンチムノ間ヲ出サレハ動産稅ヲ増減スルハ只其欲ス

ル所ニアリ故ニ州會ハ下民ノ負擔ヲ輕フセント欲スルカ若クハ中民以上ノ負擔ヲ輕フセント欲スレハ分頭動産税ノ割合ヲ以テ或ハ甲ニ重フシ或ハ乙ニ重フスルヲ得ヘシ

千八百五十六年諸州ニ於ケル直税ノ配賦ヲ示セルデオツク氏ノ表ヲ熟閱セハ右ノ割合ニ於テ諸州ノ間大不同アルヲ見ルヘシ佛國ニ於テ最貧ナル一州オートアルプ州ニ於テ分頭税ヲ課スルニ一日勞力ノ價ハ最富ナル一州ユール州ニ於ケルヨリ大ナリオートアルプ州ニ於テハ被税者ノ數二萬八千六百人ニシテ分頭税六萬千四百フランクヲ拂ヘリ即チ一人ニ付二フランク十五サンチムニ當ルユール州ニ於テハ被税者ノ數十萬二千五百人ニシテ分頭税十七萬五千百フランクヲ拂ヘリ即チ一人ニ付一フランク七十サンチムニ當ル然リト雖ユール州ノ勞銀ハオートアルプ州ノ勞銀ニ倍シタルヤ敢テ疑ヲ容レサル

ナリオートアルプ州ニ於テハ勞力三日ノ價ヲ以テニフランク十五サンチムトナシタルヲ以テ殆ト動産税ヲ廢止スルニ至レリ實ニ該州ノ正税配賦高ヨリ分頭税ヲ以テ收入スル所ノ高ヲ減スル時ハ動産税ニ配賦スヘキハ被税者二萬三千三百人家賃價格八十二萬三千フランクニ對シテ二萬三千八百フランクニ過キス即チ動産正税ノ徵收平均一人ニ付僅ニ一フランクニ過キス家賃價格ノ三分ニ及ハサル者ニシテ全國ノ平均率ニ及ハサルヲ遠シ尙オートマル州ノ形況ハ一層著シキ者ニシテ州會カ一日勞力ノ價ヲ定ムル多少ニ由リテ能ク州ノ配賦高ヲシテ悉ク分頭税ニ負擔セシメ殆ト動産税ヲ廢スルニ至ル者アルヲ見シテオツク氏ノ表ニ據レハ千八百五十六年オートマル州ニ於テ分頭税ヲ拂ヒシ者七萬三千五百人ニシテ其惣收入高二十二萬五百フランクニ達セリ即チ三日勞力ノ價ヲ以テニフランクトナセ

レ者ニシテ其富ハユール州ニ及ハサルコト遠シト雖其徵課ハ遙カニニ
 トルニ於ルヨリ大ナリ當年オートマール州ノ分頭動産税配賦ノ全
 額ハ二十七萬二千四百フランクナリシヲ以テ分頭税ノ徵收高二十二
 萬五百フランクヲ減スレハ動産税ニ於テ徵收スヘキハ僅カニ五萬千
 九百フランクニシテ家賃ノ算定價格四百十四萬四千二百フランクニ
 對シテ一分二五ニ過キサル者ナリ豈當然ト稱スルヲ得ンヤオートマ
 ール州ノ州會ハ負擔ヲ分頭税ノ一方ニ歸シ被稅者ヲシテ殆ト動産正
 税ヲ免レシメタル者ト云ヘシ

斯ノ如ク甚シキ實例ハ又他ニ見サル所ナリ然ルニ諸州會ニ於テ分頭
 動産税ノ配賦高三分ノ二ヲ以テ分頭税ニ負擔セシメシ者少ナカラズ
 〇ーン州ノ如キ正税ノ配賦高三十八萬五千七百フランクニシテ其二
 十二萬六千五百フランクヲ以テ分頭税ニ配賦セリ即チ一人ニ付二

ラシク二十五サンチムニ當ル其動産税ニ配賦セシハ僅ニ十五萬九
 千二百フランクニシテ家賃ノ算定價格五百三十七萬四千フランクニ
 對シテハ三分ニ達セサル者トス當時ノ平均稅率四分四ナリシヲ以テ
 之ヲ見レハ遙カニ之ニ及ハサリシヲ見ルヘシ又ワーマ州ノ如キハ分
 頭動産正税ノ配賦高四十八萬百フランクニシテ其殆ト半額即チ二十
 三萬七千三百フランクヲ以テ分頭税ニ配賦セリ被稅者ノ數ハ十萬五
 千六百八ナリシヲ以テ一人ニ付凡ソ二フランク二十五サンチムニ
 當ル故ニ動産税ノ負擔トナセシハ二十四萬二千八百フランクニシテ
 家賃ノ算定價格八百五十八萬千フランクニ對シテハ僅カニ二分八四
 ニ過キス

由是觀之ハ一日勞力ノ價ヲ定ムルノ權ヲ以テ州會ニ委任セシカ爲メ
 ニ益不平均ヲ生スルヲ知ルヘシ最後ノ配賦即チ諸邑ニ於テ各人一個

ニ配賦スルハ窮民ヲ除キ其邑民ノ姓名并ニ居住家屋ノ家賃價格ヲ記載セル租稅徵收原簿ニ據リテ之ヲナス右ノ原簿ハ租稅配賦吏員ト直稅局ノ「コントローラ」ノ手ニ成リテ府會ニ出タル府會ハ其稅ヲ除スヘキ者又特ニ分頭稅ノミヲ課スヘキ者ヲ指示決定ス邑ハ其原簿ニ從ヒ先ツ配賦高ヲ以テ分頭稅ノ被稅者ニ配賦シ然レ後其餘額ヲ以テ居住家屋ノ家賃價格ニ應シテ之ヲ課ス

居民ノ死去移居家賃ノ増減ニ從ヒ毎年原簿ノ修正ヲ行フ者トス

市府ノ入市稅ヲ課スル者ハ分頭動產稅ノ關スル所殊ニ大ナリ分頭動產稅ノ配賦高ハ府會ヨリ府知事ニ請求スル時ハ府庫ヨリ其全額若クハ一部ヲ拂フ者トス府會ハ其配賦高ノ幾分ヲ以テ入市稅ノ收入ニ取ルヤヲ決シ其餘ハ專ラ動產稅ニ課スヘクシテ入市稅ヲ行フ所ノ市府ノ居民ハ悉ク分頭稅ヲ免ル其動產稅ニ課スル者ハ居住家屋ノ家賃ニ

比例法近年ニ至ルマテ動產稅ハ府會ノ意見ニ由リ小家賃ノ負擔ヲ輕減シ或ハ免除シタル後又等級ヲ定メ外形ノ累進法ヲ以テ大家賃ノ稅率ヲシテ小家賃中家賃ヨリ重カラシムルモ可ナリトセリ凡ソ該稅ニ關シ府會ニ於テ討議セシ事件ハ悉ク政府ノ認可ヲ得テ舉行スル者トス

此法ヤ利害得失相半ハスル者ト云ヘシ或ハ以爲ク入市稅ヲ課スル所ヲ市府ニ於テハ下民等ハ消費稅ヲ負擔スルヲ割合ニ重シ故ニ分頭稅動產稅ヲ除シテ價補セシムルノ外他ナシ是レ一理アル者ナリ然ルニ余輩ヲ以テ之ヲ見レハ該稅ノ免除法ヲ止メ葡萄酒稅ノ如キ下民ノ爲メニ最モ有害ナル入市稅ヲ廢棄スルカ若クハ大ニ之ヲ減スルノ良キニ如カサルヘレ

稅率ニ於テ累進ノ形ヲ用フルニ至リテハ余輩モ或ル場合ニ於テハ家

賃税ニ行フコノ可ナルヲ説ケリ然ルニ之ヲ行フハ階級ノ數ヲ少フシ三四級ヨリ多カルヘカラス又稅率ヲレテ相當ノ比例例ヘハ家賃價格ノ一割五分ヲ超エシムヘカラス然ラサレハ富民ヲシテ其重キニ堪エサラシムルニ至ラン如何トナレハ富民カ家賃ニ費ス所ノ歲入ノ部分ハ往々中等ノ民ヨリ割合ニ大ナルヲ以テナリ

千八百七十六年七月參事院ノ判決ヲ以テ巴里府ニ於テ動產稅ニ累進ノ形ヲ用ヒシハ非法ナル者トセリ其故ハ巴里府ニ一人アリ其居室ノ家賃價格ノ一割〇分七五ヲ課セラル某ハ之ヲ憤リ其不正ヲ訴タヘタリ此ニ於テ參事院ハ之ヲ判決シ千八百三十二年ノ條例ニ於テ府會ニ許スニ小家賃ニ該稅ヲ免除シ中家賃ニ輕減ヲ行フヲ以テセリト雖之ヲ以テ大家賃ノ負擔額ヲ増加スルコトヲ許セシニアラストセリ其言ニ曰ク家賃ノ種類如何ヲ問ハス純然タル分頭稅ヲ減シタル殘餘ノ配賦

高テ以テ一切ノ被稅者即チ府會カ該稅ヲ免除シ若クハ輕減セント欲セシ者ヲ合セテ居室ノ家賃價格ニ比例シテ配賦シ來リシ者ハ從來ノ負擔ヲ増加スヘカラスト

是故ニ府會ハ動產稅ヲ以テ小家賃ニ課セス中家賃ニ輕フセント欲セハ入市稅ヲ増加スルヲ得ヘシト雖到底大家賃ノ負擔ヲシテ比例外ニ増加スルヲ得サル者ナリ

家賃稅ニ累進ノ形ヲ設ルハ却テ平均ヲ得セシムル者タレハ已ニ論スル所ノ如シ

之ヲ約言スレハ家賃稅ハ佛國現稅ノ最良ナル者ニ位スヘシ惜イカナ其徵收法ニ於テ甚タ宜キヲ得ヌ又之ヲ稱シテ動產稅ト云フハ當然ヲ得サル者トス如何トナレハ方今ハ昔日ノ如ク專ラ動產若クハ勞銀ニ課スルニ止ラス家賃ニ基キテ一切ノ歲入ニ課スルヲ以テナリ

分頭稅家賃稅ノ如ク其性質相異ナル者ヲ合シテ一トナスハ不便最モ甚シ殊ニ取分法ニアラスシテ配賦法ナル時ハ益宜キヲ得ス而ルヲ況ヤ州會ニ委スルニ臆測ヲ以テ分頭稅トシテ三日勞力ノ價ヲ專決スルノ權ヲ以テスルヲヤ

又動產稅ノ大過タル配賦法ニアリ元來該稅ヲ配賦スル所ノ原額ハ古來ノ算定ニ據ル者ニシテ一定ノ法ニ從ハス故ニ大不公平ヲ免レス其收入モ亦民富ノ發達ニ伴ナハス假令ヒ少ク之レアルモ僅々タル者ニ過キス諸州ノ配賦ヲ定ムルニ當リテハ新築家屋ヲ加ヘ破壊家屋ヲ減スト雖到底不完全ノ算ト云ヘシ如何トナレハ舊家屋ト雖大ニ價格ヲ變スヘケレハナリ故ニ該稅ヲ改正シテ收入ヲ増加スルハ取分法トナスニ如クハナシ然ラハ則チ大ニ政府ノ歲入ヲ増加シ入市稅ヲ廢スルヲ得ヘキナリ

租稅論第八篇

工業商業及ヒ高尙ナル職業ノ所得稅 佛國營業稅 取引高稅
動產稅

租稅ノ良制ヲ設クルニ當リテ至難ナル者ハ工業商業及ヒ高尙ナル職業ノ所得ニ課スルニ正平ナル租稅ヲ以テスルト是ナリ此ニ於テ至正至平ノ法ヲ求ムルハ尙殆ト能クスヘキニアラサルカ如シ夫レ土地ハ其純歲入若クハ賣買價格ヲ精算シテ租稅ヲ課スヘク又動產即チ大會社ノ株式負債証書手形類ニ稅スヘク最後ニ論述セシカ如ク動產稅モ亦大不便ヲ免レスト雖之ヲ課セント欲スル所ノ立法官之ヲ施行スル所ノ行政官ハ之ヲ賦課シ之ヲ徵收スルニ當リテ未タ甚シキ障碍ニ會セス然ルニ製造家商買及ヒ高尙ナル職業者ノ所得ニ至リテハ大ニ之ニ異ナリ其所得ハ常ニ變動甚シク之ヲ調査セント欲セハ人心大ニ之

ヲ厭フ之ヲ以テ通例推定若クハ外標ニ據リテ之ニ課スト雖只ニ實際ニ近キ所得ヲ見ルニ過キスシテ或ル場合ニ於テハ往々實ニ反スルノ患ヲ免レサルナリ

故ニ今之ヲ論スルニ當リテ先ツ工業商業高尙ナル職業ノ營業稅若クハ所得稅ヲ課スルハ果シテ當然ナルヤ將タ要用ナルヤヲ決セサルヘカラス國ニ歲入稅ノ法アリテ一切ノ歲入ニ租稅ヲ課スル時ハ是等ノ營業者ニ稅スルハ當然ナルヘシ夫レ國ニ歲入稅ノ法アレハ工業商業ノ歲入獨リ租稅ヲ免ルノ理ナシ只是等ノ如キハ一生ノ歲入ニシテ且ツ變動アル者タルヲ以テ資本ノ利子トシテ得ル所ノ永世一定ノ歲入ニ比スレハ寬恕ノ處分ヲ受クヘキ者トス

然ルニ佛國ノ如キ一般ノ歲入稅トシテ課スル所ノ租稅ナケレハ特ニ工業商業及ヒ高尙ナル職業ノ所得ニノミ租稅ヲ課スルノ理ナシ之ヲ

課スル者ハ一ニ政府ノ歲入ヲ得ント欲スルニ過キサル者ナリ元來佛國ニ於テハ農業ノ所得ニ稅セス地租アリト雖地租ハ只ニ地代ニ課スルニ過キス又不動産書入若クハ無抵當ニテ貸附タル資本ニ至リテハ租稅ヲ課スル限リニアラス尤モ數十年來動產稅ノ法アリト雖一切ノ動產若クハ動產ノ歲入ニ稅スル所ノ者ニアラス現ニ中央政府ノ公債證書ハ被稅ノ限リニアラス又不動産書入質貸附證書并ニ無抵當貸附證書等概シテ之ヲ言ヘハ賣買スル能ハサル一切ノ証書若クハ差金會社株式ノ一部モ均シク該稅ノ及ブ所ニアラス

此狀情ヨリシテ之ヲ見レハ工業商業職業ニ稅スルハ勞働進取ノ資本家ヲ苦シメ逸居シテ動產稅ノ及ハサル証書ヲ有スル資本家ヲ惠ムノ效驗アリ然ラハ則チ懶民ハ却テ特利ヲ有スル者ト云ハサルヲ得ス是等ノ遊食ノ資本家カ家賃稅ヲ拂フニ至リテハ又言フヘキ者ナシ如何

トノレハ製造家商賈高尙ナル職業者モ亦均ク之ヲ拂フヲ以テナリ只是等ノ營業者ハ懶民カ往々拂ハサル所ノ租稅ヲ拂フノミ(佛國ニ於テ動產條例發行以來ハ懶民ノ拂フ所ノ者ヲ増セリ)豈ニ大不公平ト云ハサルヘケンヤ

然ルニ凡ソ各國皆殆ト之ヲ行ハサルナク何レノ國ニ於テモ工業商業職業ノ所得ハ政府ノ注目スル所トナルコト他ノ歲入ニ於ケルヨリ甚シ諸國ニ於テ是等ノ稅ヲ以テ一般ノ歲入稅ト相混シ歲入稅ノ一部類トナス者少ナカラス英國ノ如キハ該分類ヲ稱シテ「シエゲユール」ト云フ然ルニ歲入稅ヲ以テ已ニ商工ノ利益ニ課シ又別ニ租稅ヲ置キ數種ノ名稱ヲ以テ職業營業ニ複課スル者少ナカラス

其一般ノ歲入稅ニ關スル者ハ今茲ニ論セス只此篇ニ於テハ專ラ營業免許稅營業稅取引高ノ稅及ヒ動產稅ヲ論究セントス

營業稅ノ最モ發達セシ者ヲ佛國トナス古來佛國ニ於テ賣買取引ノ冥加トシテ各商賈ヲシテ一定ノ租額ヲ納メシムルノ習アリ中世ニ於テ頗ル盛ニ行ハレタリ之ヲ以テ世自カラ政府ノ歲入ヲ得ル一良法ナリト信スルニ至レリ然ルニ此事タル只佛國ニ於テセシ者ニシテ近來該稅ノ法ヲ整理シ一切ノ營業ニ及ホセリ其及ハサル者ハ只ニ不精巧勞力者ニ過キス

佛國ノ營業稅ハ隣國ニ於テ諸營業ニ課スル所ノ「ライセンスト」稱スル者ト相比スルヲ得ヘシ佛國ニ於テ其生產品ニ消費稅ヲ負ヒ政府官吏ノ檢査ヲ受クル所ノ營業ハ一般ノ商賈ト均ク營業稅ヲ負ヒ又營業免許稅ヲ拂フ營業免許稅ハ僅々タル一定ノ額ニシテ取引ノ高ニ比例スルヲカメス同業ヲ營ム者ハ同額ノ稅ヲ課ス故ニ該稅ハ稅吏ノ檢査ヲ要スル所ノ製造家ヲ確知スルカ爲メニシテ巨額ノ收入ヲ得ヘキ者ニ

アラス

佛國ノ營業免許税ノ法ハ營業者自ラ其賣買スル所ノ酒ノ種類ヲ申告
 シ成規ノ代價ヲ納レテ免許ヲ得ヘキ者トス卸賣營業蒸酒製造業ハ皆
 同額ヲ納メ麥酒釀造ノ免許料ハ州ニ據リテ之ヲ異ニシ小賣營業ハ邑
 ニ據リテ之ヲ異ニス然ルニ利益ノ大小ニ比例スルヲカメス何レモ皆
 輕小ニシテ附屬税タルニ過キス骨牌製造砂糖及ヒグルコース製造シ
 コリ製造紙製造モ亦該税ヲ課ス左ニ舉クル所ノ税率ハ佛普戰爭後
 ニ増加セシ所ノ正税々率ナリ

人口四千以上ノ邑ニ於ケル酒類小賣營業 一ニフランク
 全至從六千 邑ニ於ケル全 一六フランク
 全至從一萬 邑ニ於ケル全 二〇フランク
 全至從一萬五千 邑ニ於ケル全 二四フランク

全至從一萬五千 邑ニ於ケル全 二八フランク
 全至從三萬 邑ニ於ケル全 三二フランク
 全至從五萬 邑ニ於ケル全 三六フランク
 全五萬以上ノ邑ニ於ケル全巴里府ヲ除キ 四〇フランク
 某州ニ於ケル麥酒ノ釀造營業 一〇〇フランク
 他州ニ於ケル麥酒ノ釀造營業 六〇フランク
 各地ノ蒸酒蒸餾營業 二〇フランク
 酒類卸賣商 一〇〇フランク
 骨牌製造家 一〇〇フランク
 砂糖及ヒグルコース製造家 一〇〇フランク
 シコリ製造家 二〇フランク
 紙製造家 五〇フランク

右ノ稅率ハ皆輕シ酒類小賣營業ニ至リテハ佛國ニ於テハ元來其小賣店ノ數ヲ限ルヲ以テ其營業免許稅ハ政府ノ特許ニ對シテ拂フ所ノ代價ト見做スヘシ不當ノ稅ト云ヘカラス都テ右ノ租稅ハ甚タ輕フシテ之ヲ拂フ所ノ工業商業ヲ害スルニ足ラサルヘシ是等ノ稅ヲ以テ政府ニ收入スル所ハ毎年僅カニ九百萬乃至一千萬フランクニ過キサル者ナリ

英國ノ營業免許稅ハ大ニ之ニ反シテ其區域甚タ廣ク殆ト佛國ノ營業稅ト相去ルヲ遠カラス收入モ亦頗ル大ニシテ殆ト佛國中央政府ノ營業稅收入高ニ均シ又該稅ハ常ニ一定ノ額ヲ課スルニアラス數々生産ノ多少ニ應シテ階ヲ立ル者トス千八百七十三年ノ收入高ハ殆ト一億フランクニ達セリ(三百九十一萬二千四百八)ボント(千八百五十七年ヨリ千八百七十三年ニ至ル英國ノ統計年表第九葉ヲ見ルヘシ)千八百五

十八年ノ收入高凡ソ三千六百萬フランク(百四十二萬四千六百六十三)ボンドナリレヲ以テ之ヲ見レハ該稅收入ノ增加ハ甚タ速カナリト云ヘシ元來英國ニ於テ内地ノ間稅ヲ課セシ所ノ物品製造家ニ課スルニ營業免許稅ヲ以テスルヲハ女王アンノ時ニ始マリ爾後漸次ニ擴張セシ者ナリ己ニ紙製造石鹼製造ノ如キ營業ハ舊時ノ内地間稅ヲ廢セリト雖某營業ハ尙該稅ヲ拂フ者アリ又公益ノ爲メニ政府ノ統轄ヲ要スヘシト見做ス所ノ職業ヲ營ナム者ハ營業免許ヲ受クヘキ者トセリ故ニ方今英國ニ於テ營業免許稅ヲ拂フ者ハ只ニ酒類製造者若クハ賣買商ニ止マラス紙製造家石鹼製造家烟草製造家調藥師競賣商家屋仲買骨牌製造家金銀器賣商等頗ル多シ佛國ニ於テ印稅ヲ課スル者ニ英國ニテハ營業免許稅ヲ以テ之ニ代フル者アリ例ヘハ銀行家代言人獵夫ノ如キ是ナリ小禽獸肉商畜犬主モ亦該稅ヲ拂フ者トス右ノ諸目ヲ合

セテ千八百七十三年ニハ凡ソ一億フランクノ收入ヲ得タリ又該稅ヲ負擔セシ人員ハ千八百六十九年ニ於テ二百五萬六千七百三十四人アリ然ルニ共百六萬八千二百二十一人ハ只ニ犬ヲ所有セシ者ニシテ五萬七千人ハ獵ノ爲メニ之ヲ拂ヒシ者ナリ千八百七十年内地租稅取調委員ノ報告第一卷百五十葉ヲ見ルヘシ然ラハ則チ佛國ノ免許稅ト相對比スヘキ所ノ免許稅ヲ負擔セシ者ハ九十萬人餘ニ過キササルヘシ英國ノ免許稅ハ左ノ三法ニ據ル者トス一ハ多少商業若クハ工業ノ大小ニ比例スルコト一ハ其場處ノ美惡ニ比例スルコト一ハ確定同一ノ稅率ヲ課スルコト是ナリ由是觀之ハ英國ノ免許稅ハ大ニ佛國ノ免許稅ト異ニシテ寧ロ佛國ノ營業稅ニ相類スト云ヘシ

佛國ノ營業稅ハ一切ノ工業商業ニ課シ高尙ナル職業モ殆ト皆之ヲ課スル者ニシテ實ニ革命ノ時ニ始ル千七百九十一年三月ノ條例ヲ以テ

都テ職業ノ特權ヲ廢シ從テ從前組合仲間ニ入社スル時ニ拂シ所ノ冥加金モ亦廢セララル此ニ於テ政府ハ令ヲ下タシ誰何ヲ問ハス其好ム所ニ從テ職業ヲ營ムヲ得ヘシ然レトモ各々營業ノ免許ヲ得成規ノ稅額ヲ納メ警察規則ヲ遵守スヘシトセリ故ニ該稅ハ政府カ人民ニ營業ノ自由ヲ附與セシ爲メノ報酬トモ稱スヘキモノナリ右ノ營業稅ハ其初メ徵課法頗ル簡易ニシテ被稅者ノ居住家屋商店荷物藏製造處ノ家賃價格ニ比例セシ者ナリ故ニ動產稅ト重複ノ租稅ニシテ千七百九十三年三月二十七日ノ條例ニ由テ營業稅ヲ廢セシハ固ヨリ當然ノ事ナリ革命政府ノ第三年ニ至リ再ヒ某營業ニ租稅ヲ課セシハ財政ノ困難ニ際シ止ヲ得サルニ出シ者ニシテ理ノ當否ヲ問フニ暇マナカリシモノトス然ルニ一度ヒ之ヲ復スルニ及テハ忽チ延テ諸營業ニ及ヒ數次ノ變遷ヲ經テ稅法益繞密トナレリ方今ノ諸稅ニ於テ斯ノ如ク少時間ニ

巨數ノ改變ヲ經過セシコト恐クハ該稅ノ如キ者ナカルヘシ今日營業稅ノ賦課未タ完全ナラス諸營業ノ負擔不平均ヲ免レス或ハ不滿ヲ唱フル者ナキニアラスト雖被稅者ハ之カ爲メニ憤懣ヲ發スルカ如キニ至ラス千八百七十五年ノ豫算表ニ據レハ佛國ノ營業稅ハ中央政府ノ收入高一億一千四百萬フランク地方政府ノ收入高五千四百五十萬フランクニシテ通計一億六千八百萬フランクトス此額タル地租ノ全收入高ノ半ニ超エ分頭動產稅ノ全收入高ニ超ユルコト五割ナルヲ以テ之ヲ見レハ巨額ノ收入ト云ハサルヘカラス元來佛國ノ直稅ニ於テ取分法ヲ行フハ特ニ營業稅ノ外他ナシ該稅收入高ノ增加大ヒナル所以ノ者ハ稅率ノ改正稅目ノ增加ニ由ルト雖又其取分法タルニ由ル

千七百九十一年佛國ニ於テ免許營業者ノ數ハ六十五萬九千七百二十八ニシテ營業稅ノ收入高ハ二千萬フランクニ及ハサリレ千八百二十

二年ニハ免許營業者九十五萬五千人トナリ營業正稅ノ收入高ハ千九百七十八萬二千五百二十四フランクニ止ル千八百二十九年ニハ免許營業者ノ數増加シテ百十萬千九百九十八トナリ該正稅ノ收入二千二百萬フランクニ及ヘリ右ノ數ヲ以テ之ヲ見レハ千七百九十一年以後該稅ノ收入高ハ殆ト高低ナシト雖被稅者ノ數ハ八割ノ増加アリ余輩ハ今ヴィギニ氏ノ表ヲ假リ合セテ政府ノ文書ニ據リ近年ノ數ヲ加ヘテ被稅物ノ數及ヒ營業正稅ノ收入高ヲ示メサン表中被稅物ノ數ハ免許營業者ニ比スレハ多キ者ハ一人ニシテ數邑ニ營業處ヲ有スル者アルヲ以テナリ

年代

千八百三十年
千八百四十年

被稅物ノ數

一、一六三、二五五
一、三七五、九一九

千八百四十四年	一、五一一、一〇四
千八百四十五年	一、三五二、九三〇
千八百五十年	一、四三七、四三七
千八百六十年	一、六七八、三七七
千八百六十八年	一、七六四、八三五
千八百七十二年	一、五九一、〇六二

マチユー・ポター氏ノ營業稅改正報告ニ據ル

千八百七十二年ニ至リテ數ヲ減セシハ重ニアルサースロレーン二州ヲ失ヒシニ由ル

年代

營業正稅收入高

千八百三十三年	二一、三一四、七七〇「フランク」
千八百三十七年	二八、九九二、六五八「フランク」

千八百四十二年	三四、一二八、六四八「フランク」
千八百五十年	三五、六一二、八七一「フランク」
千八百六十年	五二、七二〇、〇〇〇「フランク」
千八百六十九年	六一、五七二、八九四「フランク」
千八百七十五年	七〇、五六四、〇〇〇「フランク」

同年正稅及ヒ中央政府ノ副稅ヲ合セ、テ地方政府ノ副稅收入高ヲ除ク)

斯ノ如ク僅カニ數年ノ間ニ營業正稅ノ増加著シク千八百三十三年以來四十二年ニシテ其收入高殆ト三倍シ千八百五十年以後即チ二十五年ニシテ殆ト之ヲ倍セリ若シ正稅并ニ通常副稅臨時副稅ノ中央政府ニ收入セシ分ヲ合算セハ千八百六十年以來即チ十五年ニシテ一倍ニ達セシヲ見ルヘシ然ルニ臨時ノ副稅ハ以テ該稅自然ノ發達ヲ示メス

ニ足ラサルカ故ニ之ヲ問ハスト雖該稅ハ大ニ稅率ヲ變動セスレテ毎
 年收入ヲ増加スルノ傾向頗ル著明ナリ如何トナレハ該稅ハ取分法ニ
 シテ工商ノ發達ニ伴フテ増加シ且ツ被稅者ヲシテ租稅ヲ免レ或ハ奸
 策ヲ以テ負擔ノ一部ヲ避ルヲ得セシメサレハナリ

佛國營業稅ノ改正論ハ常ニ輿論ノ問題ニシテ未タ人心ヲ満足セシム
 ルノ舉ナント雖其日ヲ見ルコトハ遠キニアラサルヘシ今該稅組織ノ要
 領ヲ知ント欲セハ千八百七十三年ニ當リテマチューポター氏ノ有名
 ナル奏議(現今ニ至ルマテ未タ舉行セラレス)ニ付テ余輩カ佛國經濟雜
 誌ニ掲載セシ所ノ論文ヲ舉ルニ如ク者ナカルヘシ請フ其文ヲ假リテ
 茲ニ之ヲ再述セン

工業商業ノ利益ニ課スルニ平等ナル租稅ヲ以テセントスルハ頗ル
 困難ナル論題トナス此ニ只三條ノ方法ノ以テ撰フヘキアルノヨ第

一政府カ營業者ノ書類帳簿ヲ點檢シテ營業ニ干涉スルコト第二信ヲ
 被稅者ノ誓詞ニ置キ其申告ニ據ルコト第三多少緩漫ナル外標ニ據リ
 各人一個ノ利益ヲ問ハスシテ營業ノ種類ニ由リ各其利益ヲ概算シ
 テ租稅ヲ課スルコト是ナリ

右三條ノ法タル各々短處アリ以テ完全ト稱スルヲ得ス元來佛國ノ
 如キ民治ノ社會ニシテ禍亂數々起リ各世間ノ羨望ヲ招クヲ恐ル、
 時ハ政府若クハ官吏カ少シナリトモ一個ノ私事ニ立入ルコトヲ欲セ
 ス若シ政府ヲシテ人民ノ私室ニ一步ヲ入ルコトヲ許サハ政府カ十步
 ヲ進マンコトヲ恐ル之ヲ以テ國民ハ力ヲ盡シテ常ニ政府カ干涉統轄
 ノ區域ヲ限リ後害ヲ未萌ニ防ンコトヲ欲シ其初ニ於テ抗スト云フ格
 言ハ深ク佛國人民ノ意ヲ得タリ故ニ取引高ノ稅ノ議起ル毎ニ其主
 トスル處ハ只ニ營業者ノ賣上帳ヲ以テ政府ニ示メスニ過キスレテ

其一事ハ非常ノ弊事ニアラザリシト雖佛國人民ハ是ヨリシテ他ノ
 干涉從テ生センコヲ恐レタリ
 第二法ナル被稅者ノ申告ニ據ルコハ頗ル抗議ヲ免レス凡ソ人間社
 會トシテ悉ク正人君子ヲ以テ成ル者ナシ故ニ申告ノ制タル大ニ奸
 詐ヲ獎誘スルニ至ン或ハ云ン稅吏ノ注意ノ至レル檢閲ノ巧ミナル
 以テ此不便ヲ避クルコヲ得、シト然ルニ此ニ至レハ又第一條ノ弊
 ニ歸セン斯ノ如ク國人ノ不信ヲ疑フヲ止メテ不忠ナル者ハ度外ナ
 リト見做スモ申告ノ制ニ據ル時ハ或ハ不忠蔽匿ヲ以テ正人君子ヲ
 疑フノ不便ヲ免レス
 然リト雖余輩ハ前二條ノ制度ニ於テハ他ニ便益ノ以テ是等ノ不便
 ヲ償補スルモノナシト云フニアラス不幸ニシテ佛國ニ於テハ方今
 ニ至ル迄便益少ナク不便多キヲ如何セン由是觀之ハ今日ノ勢ニア

リテハ推定法即チ外標ニ據リテ營業者ノ所得ヲ推定シ被稅者實際
 ノ所得ヲ問ハスシテ租稅ヲ課スルニ如ク者ナカルヘシ該法タル其
 性質ニ於テ完美ナラス故ニ之ヲ修正シテ眞善ナラシムヘキモ到底
 至眞至善ナラシムルヲ得ス該法ノ一大短處タル營業者毎個ノ利益
 ヲ知ル能ハサルニアリ如何トナレハ該法ノ主トスル處ハ營業ノ景
 況ニ由リ各種ノ營業カ得ヘキ所ノ利益ヲ想像シテ平均高ヲ定ムル
 ニアレハナリ是故ニ該法ニ據レハ如何ニ改良ヲ計ルモ只甲業ヲ惠
 ミテ乙業ヲ苦メサルニ止マリ各人一個ノ間ニ於テハ到底無數ノ不
 平均ヲ免レサルヘシ
 マチユーボデー氏ハ其報告書ニ於テ營業稅制度ノ改進ヲ述ルコト頗
 ル明瞭ナリ千七百九十一年ヨリ千八百七十二年ニ至ル迄佛國政府
 ハ該稅ヲシテ益被稅者ノ所得ニ比例セシメントヲ力メ種々ノ改正

ヲ行ヘリ然ルニ此事タル改正ヲナス毎ニ改良シテ不平均ヲ減スルヲ得ヘキモ徹頭徹尾至正至平ナルヲ得ヘキモノニアラス尙雞卵ノ方形ナランヲ望ムカ如シ政府カ改良ヲ企ル毎ニ法制益縝密トナリ區別益細密ニ涉リ只ニ該稅不平均ノ甚キヲ除クニ過キス

佛國ノ營業稅ハ實ニ千七百九十一年三月二日ノ條例ニ始マル當時營業ノ組合仲間ノ制ヲ廢シテ之ニ代フルニ商業工業ニ租稅ヲ課スルノ法ヲ以テセリ凡ソ世ノ租稅ハ其初メ簡單ニシテ且ツ不正ナルハ常ナリ佛國ノ營業稅モ亦其初メハ被稅者ノ職業如何ヲ問ハス皆商店居住家屋ノ家賃價格ニ從テ之ヲ課シ非常ニ簡單ナリシモ不均モ亦甚シカリシ故ニ久シカラスシテ或ル營業ハ利益巨大ナルモ必スシモ上等ノ場處ヲ要セスシテ如此キ營業ハ該法ニ於テ特別ノ惠ヲ被ムリシ者タルヲ發覺セリ

此ニ於テ該稅ノ組織ヲ改正センコトヲ計リ革命ノ第三年十一月四日ノ條例ヲ以テ大ニ之ヲ改良シ營業ノ性質ニ從ヒ諸營業ヲ分テ數級トナシ各營業ノ大小ト其營業ヲナス土地ノ人口ニ從テ租稅ヲ課セリ斯ノ如ク營業稅ノ配賦ヲナスニ專ラ二箇ノ情況ニ依リシヲ以テ一市府中ニ於テ同業ヲ營ム者ハ皆同額ノ稅ヲ負擔シ營業處居住家屋ノ家賃價格ノ大小ハ毫モ之ヲ問ハサリシ者ナリ

右ノ法ハ久シカラスシテ大ニ不完全ナルヲ見テ第四年十二月六日ノ條例次テ第五年三月九日第六年一月七日第七年一月一日ノ數條例ヲ以テ配賦ノ基礎ヲ擴張シ一ニハ第三年ノ條例ヲ以テ定メシ所ノ情況即チ營業ノ大小人口ノ多寡ニ據リ定額稅ヲ課シ一ニハ千七百九十一年ノ條例ヲ以テ定メシ所ノ情況即チ被稅者カ使用スル所ノ家屋ノ家賃價格ヲ斟酌シテ比例稅ヲ課スヘントセリ爾後營業稅

ハ右ノ二部ヲ并行シ今日ニ至ルマテ變動アルナシ此制ヲ用ヒテヨ
 リ營業稅ハ兩足備ハル者ト云ヘク又跋ニアラス定額稅ヲ以テ同處
 ニ同業ヲ營ナム者ノ負擔ヲ同フシ而シテ比例稅ヲ以テ被稅者ノ營
 業處居家ノ家賃價格ノ變動ニ從ハシムル者ナリ
 然ルニ種々ノ營業ノ間ニ於テ營業稅負擔ノ不平均ハ尙頗ル甚シ共
 定額稅ヲ定ルヤ右ノ法律ニ於テハ生産ノ平均高并ニ各職業カ得ラ
 ルヘキ利益ノ多少ヲ斟酌スルニ足ラス又一方ニハ比例稅ハ一般ニ
 被稅者ノ居家及ヒ營業處ノ家賃價格ノ十分一ヲ徵收シ某營業ハ隘
 屋陋巷ニ於テ巨利ヲ射ル者アルヲ問ハサルナリ
 右ノ如キ不平均ヲ生スル原因ヲ療センカ爲メニ千八百十七年千八
 百十八年千八百十九年ニ於テ種々ノ條例ヲ以テ漸次ニ改正ヲ行ヒ
 某營業ニ於テハ大ニ定額稅ノ性質ヲ變セシモノアリ製造家ノ如キ

ハ其地ノ人口ノ多寡ヲ問ハスシテ器械ノ多少ニ從テ稅額ヲ異ニス
 ル者トナシ定額稅ノ性質ヲ變シテ定額稅ノ實ナシト雖尙其名ヲ存
 ヒリ其他數種ノ生産家ニ於ケルモ類似ノ改正ヲ行ヘリ然レトモ比
 例稅ノ部分ニ至リテハ依然トシテ動カス所ナク常ニ職業ノ種類ヲ
 問ハス一般ニ營業者カ用フル所ノ家屋ノ家賃價格ノ十分一ヲ徵課
 セリ

千八百四十四年ノ條例ヲ以テ大ニ營業稅ヲ改正シ百般ノ職業ヲ分
 テ甲乙丙ノ三種トセリ甲種ハ重ニ商店ニ於ケル營業ニシテ營業ノ
 盛衰ハ買手ノ多少ニ由ル故ヲ以テ營業ノ大小多クハ其地ノ人口ノ
 多寡ニ由ル者トス乙種ハ其地ノ人口ニ基キテ租稅ヲ課スル者ニシ
 テ其職業ノ大小ト性質ニ據リテ一般ノ稅率ヲ課スヘカラサル者ト
 ス丙種ハ邑ノ人口ヲ問ハスシテ租稅ヲ課スル所ノ職業トス之ヲ約

言スレハ甲種ハ一般ノ小賣商乙種ハ卸賣商仲買商銀行家等丙種ハ製造家トナス斯ノ如クシテ定額税ノ主義ヲ修正シ器械又ハ勞力者ノ數ニ應シテ之ヲ増加シ居家商店ノ家賃價格ニ應シテ賦課スル所ノ比例税ニ於テハ百業同率ノ制ヲ廢シ重ニ家賃價格ノ二十分一トナシ或ル場合ニ於テハ十五分ノ一トシ工業ニハ二十五分ノ一四十分ノ一若クハ五十分ノ一トナセリ被税ノ限リニアラサル者ハ第四種即チ丁種ニ列セリ

千八百五十年五月十八日千八百五十八年六月四日ノ二條例ヲ以テ從來設置セシ部類ノ發達改正ヲナセリスノ如ク政府カ年ヲ逐テ次第ニ租税法ヲ繞密ニセシハ之ヲ以テ該税ノ負擔ヲ平均セシメントヲ欲セシニアリ

右ニ述ル所ヲ以テ讀者ヲシテ營業税法發達ノ思想ヲ得セシムルニ

足ルヤ未タ知ルヘカラス該税法ハ年ヲ逐フテ益繞密トナリ殆ト明示スル能ハサルニ至レリ然ルニ若シ該税ヲシテ被税者ノ財力即チ被税者カ得ル所ノ利益否ナ營業ノ景況ニ由テ得能フ所ノ平均利益ニ比例セシメント欲セハ該税ノ性質トシテ此繞密ニ至ラサルヘカラス

佛普ノ戰爭以後數回ノ條例ヲ以テ營業税法ヲ改修補正セリト雖尙未タ不平均ヲ免レサルヲ見ルヘシ是故ニ若シ該税ヲ課スルコト重キニ過キサレハ蓋シ人心ノ憤怨ヲ來タスニ至ラサルヘシト雖大ニ配賦額ヲ増加セハ被税者ハ不平均ノ苦ヲ覺ニ或ハ堪ニ難キニ至ルコトアラシク千八百七十二年三月二十九日六月十六日二十三日ノ三條例ニ由テ近年營業税ノ負擔ヲ増加セシハ衆人ノ知ル所ナリ當年ノ議員ハ右ノ三條例ヲ議スルニ當リ各々別ニ之ヲ議シ其集合シテ生ス

ル所ノ効驗如何ヲ豫知セサリシ者ナリ
 三月二十九日ノ條例ニ由リテ數箇ノ營業處若クハ商店ヲ有シ從前
 本店ニハ租稅ノ全額ヲ拂ヒ支店ニハ半額ヲ拂ヒシ者ハ本支ノ別ナ
 ク皆全額ヲ拂ハサルヘカラサルニ至レリ又同條例ヲ以テ生産ニ使
 用セル勞力者若クハ器械ノ數ニ應ジテ課セシ所ノ工商ノ定額稅ヲ
 最高點シ廢セリ右二條ノ改正ヲ致セシハ不公平ヲ修正スルノ精神
 ニ出テタルヤ疑ヲ容レサルナリ加フルニ千八百七十二年三月二十
 九日ノ條例ヲ以テ丙種ノ被稅者或ル者ヲ除キノ定額稅ニ五分ノ一
 ヲ増加シ又數種ノ被稅者ノ比例稅ヲ増加シ家賃價格ニ應シテ十分
 ノ一ヨリ十五分ノ一若クハ十五分ノ一ヨリ二十分ノ一トセリ是故
 ニ右ノ改正ハ頗ル切要ナル者ニシテ輕視スヘキニアラス千八百七
 十二年六月十六日ノ條例ヲ以テ特ニ保護スヘシト見認メタル營業

ヲ除キ一切ノ營業ニ中央政府ノ副稅六十七サンチムヲ加ヘリ

本文國庫ニ收入スヘキ六十七サンチムノ副稅ハ後チ減シテ四十
 三サンチムトセリ

第三ノ條例即チ千八百七十二年六月二十三日ノ條例ニ於テ印紙稅
 ヲ廢シ代フルニ營業副稅ヲ以テシ再ヒ三サンチム十分ノ八ヲ以
 テ副稅ニ加ヘリ

右三條ノ集合效驗ハ頗ル急激ナリマチュー、ボデー氏ハ例ヲ舉ケテ
 其景況ヲ示セリ

最モ要用ニシテ租稅增加ノ最モ甚キ丙種ノ一營業ヲ舉テ紡績器械
 等ノ巨大ナル蒸氣器械ヲ製造シ四人ノ助手ヲ有シ千人ノ勞力者ヲ
 役シ十萬五千フランクノ家賃價格内五千フランクヲ居住家屋ノ家
 賃價格トシニ比例稅ヲ拂フ者アリトセン然ル時ハ千八百七十二

ニ當リテ拂ヒシ所ノ税額ハ左ノ如シ

定額税最高點

五〇〇フランク

比例税五千フランクノ五分

二二五〇フランク

小計

二七五〇フランク

副税十サンチーム八

二九七フランク

小計

三〇四七フランク

助手四人

四〇〇フランク

副税十サンチーム八

四三三フランク二二〇サンチーム

小計

四四三フランク二一〇サンチーム

國税惣計地方費ニ給スル正税 八サンチームノ收入ヲ除キ

三四九〇フランク二一〇サンチーム

千八百七十三年ニ拂ヒシ税額ハ左ノ如シ

定額税

一般ニ課スル者

三〇フランク

勞力者千人一人ニ付三フランク

三六〇〇フランク

小計

三六三〇フランク

比例税従前ノ如ク

二二五〇フランク

小計

五八八〇フランク

十サンチーム八

副税三サンチーム八

七十四サンチーム六

六十サンチーム

四三八六フランク四八サンチーム

小計

一〇二六六フランク四八サンチーム

助手四人

二九〇四フランク

副税七十四「サンチーム」六二一六六「フランク」三八「サンチーム」

小計 五〇七〇「フランク」三八「サンチーム」

國稅總計地方費ニ給スル正税八「サンチーム」ノ收入ヲ除キ

一五三三六「フランク」八六「サンチーム」

右ノ表ニ據リテ之ヲ見レハ千八百七十二年以前ハ三千四百九十「フランク」ヲ拂ヒシ所ノ營業者ハ急ニ一萬五千三百三十六「フランク」ヲ拂フ者ニシテ國稅ノ負擔四倍餘ノ増加ニ至リシ者ナリ斯ノ如クナルヲ以テ營業上ニ影響ヲ來タス「コ」小少ナラス營業者カ負擔ノ輕重ヲ平均シ其效驗ノ甚キヲ減セント欲シテ該稅ノ改正ヲ請求セシヤ敢テ怪ムニ足「フ」ルナリ

斯ノ如ク陸續數回ノ條例ヲ以テ營業稅法ヲ繞密ニシ殆ト明示スルヲ得サルニ至「フ」シメタリト雖之カ負擔ヲシテ遂ニ平均ナラシムル

「能」ハス余輩ハ今ヨリ方今其不平均ノ甚キ者ヲ修正除去セント欲スル所ノ議案ノ如何ヲ研究セン

「マ」チ「ユ」、「ボ」デー氏ハ營業稅部類ノ稅名ヲ改メ之カ義解ヲ以テ新法草案ノ初メニ置ケリ其第二條ニ曰ク

營業稅ハ營業免許條例ノ卷末ニ附スル所ノ表ニ則トリ各職業ニ課スル所ノ職業稅及ヒ免許營業者カ使用スル家屋ノ家賃價格ニ課スル所ノ比例稅ヲ以テ成ル者トス

右ノ言タル至適至當ト云ヒ難シ如何トノレハ第四種ニ屬スル所ノ職業ハ職業稅ヲ負擔ヒスシテ特ニ家賃價格ニ課スル所ノ比例稅ヲ拂フニ止レハナリ然ルニ此特例ハ其關スル處小ニシテ立案者モ亦之ヲ顧ミサル者ナリ本條ニ於テ舊法ニ異ナル所ノ者ハ革命政府ノ第七年以後用ヒ來リシ所ノ定額稅ノ名ニ更「フ」ルニ職業稅ノ名ヲ以

テスルコ是ナリ方今ニ於テハ定額税ニシテ往々製造器械勞力者被
 役者等ノ數ニ應シテ増減ヲナシ實際定額税ニアラス殊ニ該税ノ最
 高點ヲ廢シテヨリ定額税ノ名益々其實ニ適セス之ヲ以テ新法案ニ
 於テハ更フルニ職業税ノ名ヲ以テセリ
 マチユーポデー氏ハ右ノ職業税ハ數種ノ性質ヲ含有スルヲ説ケリ之
 ニ據ル時ハ甲種即チ一般ノ小賣營業ニ於ケル職業税ハ職業ノ階級
 并ニ營業地ノ邑ノ人口ニ應シテ税率ニ輕重アリ乙種即チ手代銀行
 家株式仲買等大商賈ノ職業税ハ或ハ人口ノ多寡及ヒ營業ノ大小ヲ
 表スル所ノ外標ニ據リテ累進率ヲ定メ或ハ特ニ邑ノ人口ニ基キテ
 税率ノ輕重ヲ定ムル者トス丙種即チ製造家及ヒ他ノ小數ノ營業ニ
 於ケル職業税ハ或ハ生産ニ用フル器械勞力者等ノ數ニ應シテ輕重
 スル所ノ税アリ或ハ同時ニ動搖スヘキ性質ト一定動カサル性質ヲ

有スル所ノ税アル者トス

斯ノ如ク職業税ノ種類數多ニシテ簡明ニ之カ解ヲ下タスコト甚々難
 シ之ヲ以テマチユーポデー氏ハ左ノ語ヲ以テ其解ヲ結ヘリ

之ヲ約言スレハ職業税ハ免許營業者ニ課スル所ノ者ニシテ家賃
 價格ニ課スル所ノ比例税ノ外一切ノ定額若クハ不定ノ租税ヲ以
 テ成ル者トス

氏ノ言ヲ以テ之ヲ見レハ營業税ノ繞密ニシテ殆々明示スル能ハサ
 ル者ナルヲ知ルヘシ

凡ソ義解ハ摘要ニシテ事ヲ論スルニ義解ニ基キ之カ得失ヲ決スル
 ニ足ラス宜ク之ヲ玩味研究シテ其淵源ヲ探求スヘシ余輩ハ今ヨリ
 一步ヲ進シテ之カ討究ヲナサント欲ス

右ノ營業税改正案ニ據レハ正税ノ全額ハ舊ニ依リテ増減セス特ニ

方今ノ負擔重キニ過シト思フ所ノ職業ハ之ヲ輕減シ輕賦ノ惠ヲ受
 シト考フル者ハ之ヲ増課スルニ止マル故ニ概シテ之ヲ見レハ被稅
 者ニ於テ負擔ヲ輕減スルニアラス政府ニ於テモ歲入ヲ減縮スルニ
 アラスシテ改正委員ハ租稅賦課ノ平均ヲ計リシニ過キサル者ナリ
 改正案ニ於テ某營業ノ負擔ヲ減セシハ實ニ六百四十七萬三千フラ
 ンク其増加セシハ六百五十六萬九千フラングナルヲ以テ増減殆ト
 相償ヒ僅カニ九萬六千フラングヲ増加ヲ見ル者ニシテ該稅ノ全收
 入高ニ比スレハ千ニ付一餘ノ割合ニ過キサル者ナリ
 斯ノ如ク其全体ニ於テハ増減相償フト雖種別ノ間ニ於テハ然ラス
 稍々著シキ負擔ノ輕減ヲ覺ユル者アリ或ハ却テ其増加ヲ苦ム者ア
 リ
 方今佛國營業稅ノ被稅者ヲ分テ甲乙丙丁ノ四種トナスハ已ニ前章

ニ云フ所ノ如シ甲種ハ則チ一切ノ小賣營業ニシテ最モ大部分ニ居
 ル其被稅者ノ數ハ百三十萬二千三百三十九人ニシテ全數ノ五分、四
 餘ニ達シ其正稅收入高ハ五千八十一萬六千フラングニシテ營業稅
 總收入高ノ三分ノ二ニ過キタリ而シテ又甲種ヲ細別シ營業ノ大小
 營業地人口ノ多寡ニ從ヒ分テ八級トセリ第二種即チ乙種ハ巨商大
 賣銀行家等ニシテ被稅者ノ數ハ僅カニ一萬六千七百十八人正稅ノ收
 入高五百七十八萬二千三百五十二フラングニ過キスシテ被稅者ハ
 全數ノ百分一ニ達セス收入ハ凡ソ總額ノ十二分ノ一ニ過キサル者
 トス丙種ハ製造家等ニシテ被稅者二十二萬二千五百六十八人收入高千
 五百七萬九千二百二十二フラングナリ丁種ハ前三種ノ如ク明示ス
 ル能ハサル所ノ者ニシテ特ニ前三種ト均シク稅スヘカラスト見做
 ス所ノ某營業ヲ以テ該種ヲ成ス之ニ屬スル者ハ五萬百五十七人ニ

レテ正税二百五萬二千七百五十五フランクヲ入ル
 由是觀之ハ中小ノ商業ハ殆ト都テ甲種ニ屬シ巨大ノ商業工業ハ殆
 ト皆他ノ種類ニ屬スルヲ知ルヘシ改正委員ノ意ハ甲種營業者ノ負
 擔ヲ減シ之ヲ以テ他種ノ營業者ニ増課スルニアリ之ヲ以テ甲種ニ
 於テ増加セシ高ハ僅ニ百十七萬千フランクニシテ減少高ハ四百六
 十一萬八千フランクニ達セリ尤モ現今甲種ニ屬スル所ノ職業ヲ以
 テ乙丙ノ二種ニ移セン者アルガ故ニ其減少高ハ大ナルヘシト雖尙
 該種ノ營業ハ全体ニ於テ凡ソ二百萬フランク即チ平均四分ノ減少
 ニ至ルヤ疑ヲ容レザルリ此減少タル大ナリト云ヘカラスト雖小商
 業ニ於テハ頗ル負擔ヲ減スルノ思アルヘシ如何トナレハ右ノ減少
 ハ甲種ノ末級即チ小商ニ於テ最モ大ナレハナリ
 甲種八級營業者ノ數及ヒ各級ノ正稅收入高ハ左ノ如シ

第一級	四三、〇八一	七、六〇一、一一四	フランク
第二級	一四、六四〇	二、四三六、九八〇	フランク
第三級	五五、六一八	五、七八三、四五七	フランク
第四級	二〇三、二七三	一一、三一五、八一	フランク
第五級	二四二、一二三	八、八〇一、七四〇	フランク
第六級	四六九、〇〇七	一一、二五七、四一四	フランク
第七級	二〇二、八三五	二、九七八、三六四	フランク
第八級	七一、五六二	六四一、一三七	フランク
合計	一、三〇二、一三九	五〇、八一六、〇一六	フランク

右ノ表ニ據レハ甲種第一級ニ於テハ正稅ノ負擔平均一人ニ付凡ソ
 百八十フランクナリト雖第八級ニ至リテハ平均一人ニ付九フラン
 クニ過キサルヲ見ルヘシ

改正委員ハ甲種第一級ニ屬スル所ノ某卸賣營業ニシテ特別ニ大ナル者即チ金剛石賣買商手形割引商等ヲ移シテ乙種ニ置ントス故ニ新法案ニ據レハ甲種ノ第一級ハ特別ニ大利アル所ノ某職業ヲ除キ卸賣商ヲ以テ成ル者ニシテ該級ニ於テハ租税ノ基礎ヲ變更スル所ナシ第二級ハ半ハ卸賣商ヲ以テ成ル者ニシテ改正案ニ於テ稅率ヲ變革スル所ナシ只少シ該級ニ屬スル職業ヲ進退シ或ハ之ヲ上級ニ編シ或ハ之ヲ下級ニ加フ其他ノ六級ニ於テモ皆多少從來所屬ノ職業ヲ出入シ其位地ヲ改ム其大ニ稅率ヲ改ムル者ハ第四第六ノ二級トス第四級ニ屬スル營業者ニシテ二千一人ヨリ五千八ニ至ル迄ノ人口ヲ有スル邑ニアル者ハ其職業稅減シテ十八フランクヨリ十五フランクニ至ル第六級ノ營業者ハ其減少尙此ヨリ大ナリ比例稅ニ至リテハ方今ハ家賃ノ二十分一ナリト雖改正案ニ據ル時ハ三十

分一ヲ過キサル者トス最下ノ二級第七級第八級ハ其外形ニ於テ變更スル所アリト雖實際ニ於テハ毫モ異ナル所ナシ如何トナレハ現今右二級ノ被稅者カ負擔スル所ノ職業稅ヲ輕減スト雖新タニ方今負擔セサル所ノ比例稅ヲ課スルヲ以テ増減相償ヘハナリ之ヲ約言スレハ新法案ニ於テ利スル所ノ者ハ獨リ甲種ノ營業者即チ中小ノ商賈ニアリ又其甲種中ニ於テ凡ソ二百萬フランクノ輕減ヲ利スル者ハ獨リ第四第六ノ二級ニアリ方今右二級ノ營業者ハ實ニ六十七萬二千二百八十四人ニシテ二千二百五十萬フランクヲ拂フヲ以テ改正案ノ減少高ハ一人ニ付凡ソ三フランク徵收高ニ對シテハ其十分一ニ當ル者ナリ之ニ副稅ヲ加フル時ハ稅額ヲ倍スルヲ以テ第四第六二級ノ被稅者ハ改正案ニ於テ各々平均六フランクノ負擔ヲ減スヘキ者ナリ

乙種ハ手代仲買運輸營業者銀行家株式仲買等一切ノ巨商大買ニシテ職業ノ種類都テ二十二營業者一萬六千七百十八租税ノ收入高殆ト六百萬フランクトス改正委員ハ多少該種ニ於テ租税ノ額ヲ増加シ甲種ニ於テ減少セル者ヲ償ハンコヲ計レリ故ニ該種ニ於テ減少スヘキ高ハ僅カニ三十萬七千フランクニシテ増加スヘキ高ハ百二十四萬フランクニ達シ差引純増加高九十三萬三千フランクトナルヘシ然ルニ甲種ヨリ乙種ニ轉スル所ノ職業アルカ故ニ之ヲ減スレバ實際負擔ヲ増加スヘキハ僅ニ五六萬フランク即チ現今收入高ノ九分乃至一割ニ過キサル者ナリ豈ニ苛刻ナリト云フヘキモノナランヤ

製造家ヲ以テ成ル所ノ丙種ニ於テモ均シク負擔ヲ増加シ増加高ノ減少高ニ超ユル者凡ソ百八十萬フランク即チ現今正稅收入高ノ殆

ト一割二分ニ當ル

改正案ニ於テ最モ負擔ヲ増加スル者ヲ丁種トナス方今該種ノ正稅收入高ハ二百五萬二千フランクニシテ其増加スヘキ高ハ八十萬フランクナルヲ以テ實ニ四割ニ達ス己ニ陳セシ如ク該種ハ種々ノ事情ヨリ甲乙丙三種ノ職業ト均シク稅スヘカラスト見做シタル所ノ某職業ヲ以テ成ル者ニシテ敢テ判然ト何職業ハ此種類ニ屬スト云フヲ得サル者ナリ該種ニ屬スル所ノ某職業ハ一切職業稅ヲ負擔セス只負フ所ノ者ハ比例稅ニ過キス之ヲ以テ改正案ニ於テ大ニ其比例稅ヲ増加センコヲ計ル

千八百七十三年ノ改正委員ノ議案ニ據ル時ハ甲種即チ中小ノ營業ニ於テ負擔ヲ減シ他ノ三種即チ巨商大製造家ノ負擔ヲ増加スルカ故ニ多少營業稅ノ不平均ヲ減却スルヤ明カナリ然ルニ輕減ノ利ヲ

受ル者ハ甲種ノ全級ニ及フニアラス僅ニ其一二級ニ過キサル者ニシテ其利タル甚ク小ナリ是故ニ右ノ改正案ハ未タ以テ衆望ヲ満足セシムルニ足ラスト雖亦一步ノ改良ト云ハサルヲ得ス

マチニューボデー氏ハ一例ヲ丙種ノ蒸汽器械製造家ニ取り千八百七十二年ニ於テハ正税副税トシテ中央政府ニ三千四百九十フランク二十「サンチーム」ヲ拂ヒシ者ハ定額税即チ職業税最高點ノ廢止六十「サンチーム」ノ副税設置及ヒ他ノ改革ノ爲メニ千八百七十三年ニ於テ中央政府ニ拂フ所ノ者一萬五千三百三十六フランク八十六「サンチーム」即チ前年ニ比シテ四倍ノ多キヲ拂フニ至ルヲ説ケリ爾後六十「サンチーム」ノ副税ハ減シテ四十三「サンチーム」トナリシカ故ニ改正案ニ由リテ新法ヲ行フ時ハ右ノ製造家ハ一萬千四百五十九フランク二十五「サンチーム」ヲ拂フヘシ千八百七十三年ノ景況ニ比ス

レハ負擔ヲ輕減スル者ナリト雖佛普ノ戰爭以前ニ比スレハ尙三倍ノ多キヲ加フト云ヘシ

斯ノ如ク或ル營業者ハ商業ノ困難市場ノ不景氣ナルニ當リ物品ノ買手ヲシテ負擔ヲ分タシムルヲ能ハサル時ハ三倍餘ノ直税ヲ拂フヘレ加之ス數種ノ間税新タニ加ハリ四方ニ營業者ヲ攻ムル者アルニ於テヲヤ

本文ハレルリポリユー氏カ千八百七十三年十二月二十日二十三日ノ刊行佛國經濟雜誌ニ掲載セシ論文ナリ

右ニ論述スル所ヲ以テ之ヲ見レハ佛國ノ營業税ハ左ノ四條ノ意ヲ以テ賦課スル者ナルヲ知ルヘシ

第一 營業ノ利益ハ衆業皆必スシモ一様ナラス一見シテ利益ノ多少著明ナル所ノ職業多シ即チ銀行家ノ利益ハ小木匠ノ利益ヨリ多ク乾

物商ノ利益ハ靴直シ職ノ利益ヨリ多キハ衆人皆敢テ疑ハサル所ナリ然ラハ則チ利益ノ多少ヲ推定シテ營業ノ階級ヲ定ムルハ決シテ理ナシト云ヘカラス

第二 同シ營業ニ於テハ通例營業地ノ人口ノ多寡ニ由リ利益ニ大小アリ例ヘハルアン府ノ乾物商ハイヴェトー邑ノ同業者ニ比スレハ利益多カルヘク又イヴェトーノ乾物商ハ一小村ノ同業者ヨリ利益多カルヘク故ニ小賣營業中ニ於テハ人口ノ多寡ヲ計リテ利益ノ大小ヲ推定スルハ可ナリ然ルニ工業ニ至リテハ大ニ之ニ反ス是故ニ佛國ノ法律ニ於テモ之ヲ以テ工業ニ及ホサス

第三 工業若クハ商業ノ利益ハ營業場處ノ良否器械ノ多少使役者ノ衆寡ニ由リテ大小アルヲ常トス即チ紡錘十萬箇ノ製造處ヲ有セル紡績家ハ紡錘一萬箇ノ製造處ヲ有セル同業者ニ比スレハ博利ノ機會多

カルヘク巨大ノ商店ヲ有スル乾物商ハ小店ヲ持スル同業者ニ比スレハ博利機會多カルヘク百人ノ被役者ヲ使役スル所ノ呉服商ハ十人ヲ使役スル同業者ニ比スレハ博利ノ機會多カルヘク故ニ營業ノ大小ニ由リテ利益ノ大小ヲ推定スルハ最モ當然ノ理ナリ且ツ製造業ノ如キハ利益ノ大小アル殆ト特ニ業ノ大小ニ由ル

第四 營業利益ノ大小ハ數々營業者ノ住家ノ家賃ト關係ヲ有スル者トス如何トナレハ營業者ハ通例利益ノ大ナルニ從テ益良好ナル家屋ニ住スル者ナレハナリ此事タル概シテ虛妄ナルニアラサレトモ四者ノ中最モ精密ナラサル者トス何ヲ以テカ之ヲ云フ曰ク營業者カ壯館美室ニ住スルハ前日貯積セシ財産ヲ有スルニ由ルコアルヘク本人ノ嗜好家屬ノ多少等ニ由ルコアルヘケレハナリ加フルニ已ニ一般ノ家屋稅ヲ課シ而シテ又別ニ住家ノ家賃ニ比例シテ營業稅ヲ課スルハ豈

ニ當然ナル者ナランヤ
 是等ノ情狀ヲ量リテ利益ノ大小ヲ推定スルハ頗ル繞密ニシテ或ル格
 段ナル場合ニ於テハ數々適美ナラサルヘシト雖營業稅ヲ課スルニ被
 稅者ノ申告ニ由ラス又人民ノ私事ニ關涉セサランコトヲ欲セハ右ノ推
 定法ニ由ルノ良キニ如カサルヘシ已ニ論及セシカ如ク營業稅ハ營業
 者ノ實益ニ課スルヲ力ムルヨリ率口營業ノ景況方法ヲ見テ理ニ於テ
 得ヘキ所ノ利益ニ課スル者タルヲ忘ルヘカラス故ニ假令ヒ被稅者ノ
 實益ハ其平均利益即チ推測利益ニ及ハサルモ政府ハ敢テ之ヲ輕減セ
 ス之ニ反シテ其實益ハ推測利益ニ過クルモ敢テ之ヲ増加セサルナリ
 斯ノ如クニシテ佛國ノ營業稅ハ非常ニ重ク正稅副稅トシテ一ヶ年七
 萬五千フランク若クハ十萬フランクヲ拂フ者アリ然リト雖佛國ノ營
 業者ハ能ク之ヲ忍ビ未タ嘗テ該稅ヲ廢棄シテ之カ負擔ヲ免レコトヲ力

メシヲ見ス此點ニ於テハ佛國ノ營業者ハ大ニ英國ノ同業者ニ異ナル
 者アリ英國ノ歲入稅ハ割合ニ輕ク其營業者カ拂フ所ハ佛國營業者カ
 負擔スル所ノ營業稅ノ(正稅副稅ヲ合セテ)半額若クハ三分ノ一ニ過キ
 スト雖尙力ヲ盡シテ之ヲ廢棄センコトヲ欲ス英佛兩國ノ民ニ斯ノ如キ
 差違アル所以ノ者ハ蓋シ英國ハ久ク太平ノ澤ニ浴シ租稅ノ改正輕減
 殆ト意ノ如ク常ニ或ハ輕減シ或ハ全廢スルヲ得タルヲ以テ人民之ニ
 慣レ隴ヲ得テ又蜀ヲ望ムノ心ヲ生セシニアリ佛國ハ之ニ反シテ負擔
 常ニ増加シ人民之レニ慣レ敢テ怪マサルニ至レリ又利益ヲ申告スル
 ヲ忍フコトハ租稅ノ増加ヲ負擔スルヨリ難キニアルカ
 然ルニ佛國營業稅ノ法ニ於テハ負擔ノ不平均甚シク人民カ能ク之ニ
 堪ユルハ眞ニ愕クニ堪エタリ某職業ニ於テハ其憑據スル所ノ利益ノ
 外標甚タ完全ナラス例ヘハ銀行營業ノ如キハ其場處ノ大小美惡被役

者ノ衆寡ハ營業者ノ實益ノ多少ヲ表スルニ足ラス仲買商ノ如キモ殆ト相同ク其場處ト被役者ヲ見テ遽カニ之カ實益ヲ量ルコト能ハス故ニ是等ノ營業者ノ不平均ヲ免レサル者ト云ヘシ茲ニ尙此ヨリ甚シキ不平均アリ組合營業ニレテ數人相集リテ一業ヲ營ム時ハ一人ニシテ業ヲ營ムト營業ノ大小相同ト雖其負擔却テ重キコト是ナリ請フ之カ例ヲ示サン

茲ニ一個ノ船主アリトセン方今佛國營業稅ノ制度ニ據レハ船主ノ負擔ニハ先ツ比例稅アリ該稅ハ營業場處ノ家賃價格十五分ノ一トス而シテ若シ其住居同地内ニアル時ハ住家ノ家賃ニ及フ者トス又所有ノ帆船航洋船ハ一噸ニ付四十八「サンチーム」ヲ拂フ然ルニ右ノ船主若シ一人ノ助手ヲ有スル時ハ每噸二十四「サンチーム」ノ增稅ヲ拂ヒ合セテ一噸ニ付七十二「サンチーム」ヲ拂フ者トナリ二人ノ助手ヲ有スル時

ハ一人毎ニ各々十六「サンチーム」ノ增稅ヲ拂ヒ合計一噸ニ付八十七「サンチーム」ヲ拂フ即チ船主カ獨力ヲ以テ營業スル時ニ比スレハ殆ト七割ノ增稅ヲ拂フ者ナリ然ラハ則チ佛國ノ營業稅ハ組合營業ニ重ク單力營業ニ輕キモノナリ即チ財力薄ク獨力ニシテ業ヲ營ム能ハサル者ニ重課シテ財力足り獨力ニシテ業ヲ營ムコトヲ得ル者ニ輕課スルナリ斯ノ如キ不正ナル租稅法ハ習慣ニアラサルヨリ何ソ能ク之ヲ行フコトヲ得ンヤ此制度タル蠻野ノ遺風ニシテ自由競争ヲ妨碍スル者ナリ前章ニ於テマチュールボデー氏ノ報告中ニ此類ノ例証ヲ舉ケ千人ノ勞力者ヲ使役シ十萬「フランク」ノ家賃ナル製造所ヲ有シ居家ノ家賃五千「フランク」ナル者ニ住スル所ノ器械製造家ハ獨力營業ナレハ千八百七十三年ニ於テ國稅トシテ營業稅一萬二百六十六「フランク」ヲ拂ヒ若シ二人ノ助手ヲ有スレハ一萬五千三百三十六「フランク」八十六「サンチーム」ヲ

拂へり即ち營業ノ大小利益ノ多少ニ異ナル所ナリシテ組合ヲ以テスレハ五割ノ増稅ヲ拂ヒシ者ナリト云ヒシハ吾人ノ共ニ記スル所ナリ故ニ此制タルヤ逆累進稅トモ稱スヘシ今試ニ家屋稅ニ於テ數家族ノ一家屋ニ住スル時ハ其稅五割ヲ増課スル者トセハ富民カ特惠ヲ被ルコトヲ憚リ政府ノ措置不正無法ナルヲ責ルモ敢テ非理ノ不平ヲ唱フル者ト云フヲ得サルヘシ然ラハ則チ地租ニ於テハ不正トスル所ノ者ヲ以テ數年以來營業稅ニ行フ者ニアラスヤ此法タル只ニ道理ニ背戻スルノミナラス營業上尙組織ノ發達ヲ妨クルモノナリ航海營業者ノ言ヲ聞クニ右ノ法律ノ爲メニ船主ハ船長ト組合トナル能ハスシテ其不便少ナカラスト云フ

佛國ノ營業稅ニ於テハ尙他ノ不平均少ナカラス諸職業ノ階級分定ノ宜キヲ得サルカ爲メニ利益ノ機會大小相同キ者ニシテ甲業ハ乙業ノ

三倍若クハ四倍ヲ拂フ者アリヂユブイテローム氏ノ航海營業調査報告ヲ見ルニ四萬噸ノ船隊ヲ造ルニ一千萬フランクノ資本ヲ要スル者トス若シ其所有主人ナレハ正稅一萬九千二百フランクヲ拂フ之ニ反シテ銀行營業ニ於テハ均シク一千萬フランクノ資本ニテ正稅僅カニ三千二百フランクヲ拂フト云フ然ラハ則チ航海營業ハ銀行ニ六倍ノ租稅ヲ負擔スル者ト云フヘシ

若シ營業稅ノ不平均ヲ減セント欲セハ階級ノ分定ヲ改正シ助手ノ爲メニ課スル所ノ増稅ヲ廢セサルヘカラス而シテ營業者ノ居室ニハ已ニ動產稅ノアルアリ故ニ其居室ノ家賃價格ニ租稅ヲ課セサルヲ良トス概シテ財產家及ヒ他ノ資本家抵當ヲ以テ資金ヲ貸附ル類ニハ租稅ヲ課セサルニ獨リ工商ノ職業若クハ高尙ナル職業ニノミ租稅ヲ課スル時ハ豈ニ論議ヲ免ルヲ得ンヤ

不完全ナル近年ノ改正(定額税否ナ職業税最高點ノ廢止ニ至ル迄佛國ノ營業税法ハ不正甚シク大ニ貧民ヲ苦メ富民ヲ惠メリ方今ト雖其弊尙未タ止マズシテ富民ニ輕ク貧民ニ重シ斯ノ如キ形況ニ於ケル自然ノ勢トシテ今日ハ漸ク輿論ノ激動ヲ起シ其弊ヤ却テ反對ノ極點ニ偏セントスルカ如シ

二十年以來巴里府ニ於テ數箇ノ巨大ナル商店ノ設立行ハレ數種ノ物品ヲ販賣スルハ衆ノ皆知ル所ナリ是等ノ商店ノ發達ハ佛國經濟上ノ組織ニ於テ一種著明ナル現象トス小商業者ハ之ヲ見テ甚ク快シトセス蓋シ彼輩カ不平ヲ訴フルハ理ナキニアラスト雖政府ノ力ヲ借り法律ヲ以テ是等ノ大商店ヲ破滅セントスルハ甚キニ過クト云ヘレ其目的タル小賣店ニシテ四種若クハ五種以上ノ物品ヲ販賣スル者ハ特ニ營業税ヲ重課シ以テ内地ノ商業ヲシテ一定ノ方法ニ歸セシメントス

ルニアリ是レ税關ニ於ケル保護ノ制ニ倣ヒ内地ニ保護ノ制度ヲ設クル者ト云ヘシ交換ノ自由國富ノ發達ヲ妨クルヲ恐クハ該制度ノ如ク甚キ者アラサルヘシ只彼輩カ請求スルヲ得ルハ大商店ヲシテ利益ノ割合(假令ヒ其實益ニ比例スル能ハサルモ當然ノ利益ニ比例シテ)ニ營業税ヲ負擔セシムルニアリ方今ニ於テハ小賣商ハ家賃ノ大小ト被役者ノ多少ニ比例シテ該税ヲ課スル者トス若シ之ニ加フルニ取引高ノ税ヲ以テスルカ止ヲ得サレハ被稅者ノ申告ニ由リテ歲入税ヲ課セハ多少營業税ノ不平均ヲ修正スルヲ得シ尤モ取引ノ高ヲ酌量シテ營業税ヲ課スル時ハ大商店ノ負擔ハ小商店ニ比シテ割合ニ重カルヘシ如何トナレハ取引高ト利益ノ比例ハ大商店ニ小ニシテ小商店ニ大ナルヘケレハナリ然ルニ他ニ大商店ニ輕ク小商店ニ重キヲ致ス所ノ者アリテ之ト相償補スヘシ即チ家賃ノ如キ是ナリ利益ト家賃ノ比例ハ大

商店ニ大ニシテ小商店ニ小ナルハ敢テ疑ヲ容レサルヘシ
 前日ハ營業稅ヲ以テ獨リ製造家商賈ノミニ課セシ者ナレトモ後チ延
 テ代言人醫師建築家等ノ高尚ナル職業ニ及ホセシハ宜キヲ得タル者
 ト云ヘシ然リト雖悉ク高尚ナルヲ職業ニ課セントスルハ難シ之ヲ以
 テ只代言人醫師建築家ニ課スルニ營業稅ヲ以テセリ
 凡ソ營業稅ヲ課スル時ハ營業者ノ利益ヲ減シテ實際ニ之ヲ負擔スル
 者ハ商賈若クハ製造家ニアリヤ將タ物品ノ價ヲ騰貴シテ實際ニ於テ
 ハ消費者ヲシテ之ヲ負擔セシムルヤヲ探究スルハ頗ル有益ナルヘシ
 フランクリン氏嘗テ云ヘルアリ商賈ハ皆其拂フ所ノ租稅ヲ以テ物價
 ニ加フト果レテ然ルヤ否ヤ請フ之ヲ論究セン
 營業稅ノ實際負擔ノ歸スル所ハフランクリン氏ノ言ヘルカ如ク簡單
 ナル者ニアラス場合ニ由リテ大ニ之ヲ異ニスヘシ萬一各國皆營業稅

ヲ行ヒ稅率悉ク同一ナラシメハ營業稅ハ一般ニ工商ノ營業費ヲ增加
 シ物價ヲ騰貴シ消費者ヲレテ之ヲ負擔セシムルニ至ルヘント云フモ
 可ナリ然ルニ斯ノ如キ想像ノ場合ニ於テモ必ス常ニ消費者ヲシテ負
 擔セシムヘシト云ヒ難カルヘシ例ヘハ若シ國家ノ艱難商業ノ不景氣
 ナルニ當リテ營業稅ヲ増加スルヲアレハ假令遂ニハ消費者ニ負擔ヲ
 讓ルヲ得ルモ暫時ノ間ハ營業者自ラ之ヲ負擔セサルヘカラサルヤ
 敢テ疑ヲ容レサルナリ
 然ルニ營業稅ハ萬國ノ皆必スシモ行フ所ニアラス之ニ類似ノ租稅ヲ
 以テ商賈製造家ニ課スル者アリト雖皆其稅率ヲ同フセス故ニ營業稅
 ヲ以テ常ニ消費者ノ負擔スル所トナルヘシト云フハ當レリト云フヘ
 カラス凡ソ外國品ノ輸入ヲ許シ保護稅ヲ行ハサル國ニ於テハ營業稅
 ヲ負擔スル者ハ製造家ニシテ買手ニアラサルヤ明カナリ若シ之ニ反

レテ輸入品ニ課スルニ保護税ヲ以テスル時ハ内國ノ製造家ヲレテ營業税ノ負擔ヲ脱スルヲ得セシムヘシ甲乙ノ國ヲ問ハス商買製造家ノ物品ヲ輸出スル者ハ實際營業税ヲ負擔シ之カ爲メニ利益ヲ減スヘシ只消費者ニ營業税ヲ負擔セシメ數歲月ノ中ニハ自ラ其負擔ヲ免ルヲ得ヘキ者ハ獨リ小賣營業者ノミ然ルニ此輩トテモ決シテ全負擔ヲ以テ消費者ニ讓ルコトヲ得サルヘシ例ヘハ巴黎府ノ如ク外國旅客ノ群集スル所ニ於テハ物品ノ價ヲシテ外國ノ市府ニ於ケル同物品ノ價ト大異同ナカラシムルニアラサレハ販賣高ヲ減スヘキカ故ニ小賣營業者ハ多少外國ノ價ヲ顧ミテ斟酌セサルヘカラス然ルヲ今一朝新税ヲ課スルコトアレハ是等ノ營業者ハ販賣高ヲ減スルニアラサレハ物價ヲ騰貴スルコトヲ得サルヘシ斯ノ如キ場合ニ於テハ小賣營業者ハ假令ヒ租税ノ全額ヲ負擔セサルモ實際其一大部分ヲ負擔スヘシ實ニ營業税

ハ營業ノ難ヲ増シ利益ヲ減シ多少營業ノ新開ヲ妨ケ内國ニ於テ商買ノ競争ヲ減縮スルノ傾向アル者ナリ
 斯ノ如ク小賣營業ハ通例數歲月ノ中ニハ營業税ノ大部分ヲ以テ消費者ニ負擔セシムルヲ得ヘシト雖之ヲ以テ一般ニ他ノ營業者ニ及ホシ營業税ノ爲メニ利益ヲ減スル者ニアラスト云フ能ハサルヘシ殊ニ製造家ノ如キハ内外市場ニ於テ外國ノ製造家ト競争セサルヘカラサル者ナリ故ニ營業税實際ノ負擔ノ歸スル處ヲ論セント欲セハ宜ク其場合ニ由テ之ヲ問フヘシ
 外國營業税ノ賦課法ハ既ニ論セシ如ク取分法ニシテ被稅者ノ調査租税原簿ノ調製ヲナス者ハ中央政府ノ吏員ニアリテ地方ノ配賦吏員ハ之ニ關セス然レトモ市長ハ之ニ參與シ討論スルヲ得ル者トス其配賦法ニ勝ルヤ論ヲ待タサルナリ

佛國營業稅ノ收入ハ其方法ノ不完全ニシテ不平均ノ甚シキモ尙頗ル大ニシテ英國歲入稅ノ丁種即チ職業商業ノ利益ニ課スル所ノ租稅ノ收入ニ勝ル面シテ被稅者モ亦能ク忍テ之ヲ負擔ス如何トナレハ租稅ノ負擔ハ不平均ナリト雖甚キニ過キサルカ故ニ方今ノ人情トシテ私事ヲ探求セラルカ如ク之ヲ嫌厭スルコト甚シカラス且ツ佛國人民ハ政治ニ於テハ温順ナラサルモ財政上ニ於テハ頗ル堪忍ノ氣アルヲ以テナリ

營業稅ヲ課スルニ取引高ヲ斟酌スル者トセハ可ナラン取引高ノ稅ノ事ハ嘗テ佛國ニ於テ之ヲ以テ粗生品ノ稅ニ代ヘンコトヲ論セシ者アリシニ議院ニ於テ僅々タル多數ノ爲メニ遂ニ廢案トナリシ者ナリ當時チエール氏ブーエケルチェ氏ハ非常ノ奮發ヲ以テ粗生品稅ノ廢スヘカラサルヲ論セシハ吾人ノ共ニ記スル所ナリ

抑取引ノ高ハ營業者ノ實益ヲ表スルニ足ラサルモ相當ノ利益ヲ表スル者ニシテ紡績業ニ於ケル紡錘ノ數織物業ニ於ケル器械ノ數船舶ノ噸數商店ノ家賃ト共ニ商賈製造家ノ利益ヲ推定スル一助トナスヲ得ヘシ或ハ以爲ラシ商家ノ取引高ヲ知ルハ敢テ難事ニアラス商賈製造家等ニ取引高ノ申告ヲ請求スルモ大害アルモノニアラス彼輩ハ別ニ帳簿ヲ製シテ之ヲ記載セハ可ナルヘシ其取引高ヲ示メストテ敢テ其信用ヲ傷ケラル者ニアラス又一個人ノ自由ヲ妨ケラル者ニアラサルヘシト或ハ又曰ク賣買取引ノ高ニ租稅ヲ課セハ僅々タル稅率千分ノ一若クハ千分ノ二ヲ以テ一億フランクノ收入ハ得難キノ額ニアラスト右ノ諸說ハ取引高ノ稅カ議院ノ論題タリシニ當リテ論者ノ主唱セシ所ノ者ナリ

實ニ取引ノ高ハ商賈製造家ノ利益ヲ表スル一方今營業稅ニ用フル所

三百
ノ他ノ外標ノ如ク著シキ者ニアラス故ニ取引ノ高ニ基キ新タニ一稅ヲ課セント欲スルハ大ニ誤レリト云ヘシ若シ別ニ取引高ノ稅ヲ置ント欲セハ先ツ營業ノ種類ニ由リ利益ノ割合ヲ量リテ商賈製造家ノ階級ヲ分タサルヘカラス例ヘハ驕奢物ノ生産者ハ通例得ル所ノ利益ノ割合大ニシテ其物價ノ二割若クハ三割ヲ得ルコト少ナカラス然ルニ消費ノ廣大ナル普通物品ノ生産者ニ至リテハ之ニ異ナリ是等ノ物品ハ原價ト賣價ノ差甚タ小ナル者ニシテ其大利ヲ得ル所以ノ者ハ賣買取引ノ多量ナルニアリ卸賣商ノ小賣商ニ於ケルモ亦然リ其利益ハ遙カニ小賣商ヨリ薄シ又殊ニ銀行家仲買等ノ利益ハ取引ノ高ニ比例スレハ非常ニ非薄ナリトス是ヲ以テ取引高ノ稅ヲ置カント欲スルニ當リテハ固ヨリ毫モ不平均ナキヲ期スヘカラスト雖基シキ不公平ナク營業職業ノ級ヲ分チ各々稅率ヲ異ニセサルヘカラスト雖殆ト能クナレ

三百一
得ヘキノ業ニアラサルカ如シ或ハ銀行家其營業資本ノ高ニ應シテ稅ヲ課セリ仲買等ハ該稅ヲ課セサルヘシトセリト雖階級ノ數非常ニ多カラサルヘカラスシテ稅率ヲ定ムルニ至リテ其重キニ堪ヘサル者ナカラシメント欲スルモ殆ト得ヘカラスラン
其收入高ニ至リテモ亦論者カ期望セシ如ク大ナラサルヘキヤ疑ヲ容レサルナリ佛國ニ於テ賣買取引ノ高ハ論者ノ言ノ如ク巨額ニ達セサルヘシ况ヤ農產品ノ小賣高ヲ除算スルニ於テヲヤ取引高千分ノ一若クハ千分ノ二ノ稅ハ通例一割乃至二割ノ利益ヲ得ル所ノ製造家ニアリテハ輕シト雖僅カニ五分乃至一割ノ利益ヲ得ル所ノ卸賣商ニアリテハ已ニ漸ク重シ仲買等ノ如キ二分三分ノ利益ヲ得ルヲ常トスル者ニ至リテハ其重キニ堪ヘサルヘシ例ヘハ是等ノ營業者ニ取引高ノ千分ノ二ヲ稅ストスレハ輕キハ所得ノ一分重キハ一割トナルヘシ故ニ

斯ノ如キ重課ナカラメント欲セハ其稅率平均一萬分ノ五ニ過クヘ
 カラス然ラハ則チ其收入ハ三千萬乃至四千萬「フランク」ニ過キサルヘ
 シ之ニ反シテ營業稅ヲ增課セハ斯ノ如キ大不便ナクシテ三四千萬「フ
 ランク」若クハ其餘ニモ收入ヲ得ヘキナリ

又取引高ニ稅ヲ課スルハ同品同位ノ生産物ニシテ稅ノ負擔ニ
 輕重ヲ異ニスルノ患アリ即チ一物品ノ製造ヲナスニ終始一製造處ニ
 於テスルト數個ノ製造家ヲ經ルトニ於テ負擔スル所ヲ異ニスヘ例
 ヘハ玆ニ一ノ巨大ナル織物製造處アリ直チニ自ラ外國ヨリ綿ヲ輸入
 レ之ヲ紡キ之ヲ織リ之ヲ染メテ販賣セハ稅ヲ負擔スル一ノ一回ニ止
 マル然ルニ一物品ノ大成ニ至ルマテ數回小製造家ノ手ヲ經ル時ハ大
 ニ負擔ヲ異ニスヘ我佛國ノ如キハ中小ノ製造家甚々多ク紡績家ハ
 專ラ紡績ヲ業トシ自ラ合衆國ニ通シテ綿ヲ輸入セス其用フル所ノ綿

ハ「ハーブル」ノ仲買商ニ依リテ之ヲ買フ故ニ右ノ綿ハ其賣買ノ時ニ於
 テ一回稅ヲ負擔ス又右ノ紡績家ハ自ラ木綿ヲ織ラステ絲ヲ織物
 家ニ賣ル此ニ於テ第二回ノ稅ヲ負擔ス織物家ハ木綿ヲ染メステ
 之ヲ染師ニ賣ル此ニ於テ第三回ノ稅ヲ負擔ス染師ハ後之ヲ卸賣商
 ニ賣ル此ニ於テ第四回ノ稅ヲ負擔ス斯ノ如ク同一ノ物品ニシテ事
 業ノ取扱ヲ分ツ時ハ政府ニ四回ノ收入アリ之ヲ一處ニスレハ收入一
 回ニ止マル然ラハ則チ巨大ノ營業者ニ特惠ヲ與ヘテ小營業者ヲ苦シ
 ムル者トナルヘシ斯ノ如キ效驗ハ間稅ノ通病ニシテ殆ト避クヘカラ
 サル者タルハ既ニ論スル所ノ如シ決シテ取引高ノ稅ノミニ止ラサル
 ナリ殊ニ此事タル製造品ニ課スル所ノ稅ニ於テ尤モ甚シトス元來自
 然ノ性質トシテ巨大ノ營業ハ小營業ニ望ムヘカラサル所ノ便益ヲ有
 スル者ナリ

斯ノ如ク取引高ノ税ハ不便多シト雖營業稅ヲ課スルニ當リテ某營業例ヘハ小賣營業殊ニ吳服商ノ如キニ於テハ取引高ヲ以テ營業利益ヲ量ルノ一具トナスヲ得ヘレ

又營業利益ニ課スル所ノ租稅ニ加フルニ諸國ニ於ケルカ如キ動產稅即チ株式負債証書手形類若クハ普通會社ノ利益ノ配當高ニ課スル租稅ヲ以テスルモ可ナリ是等ノ動產ニ稅スルハ頗ル便利ニシテ收入必ス多ク又開明國ニ於テハ年ニ收入ヲ増加スヘシ然リト雖之ヲ輕課スルニアラサレハ不便モ亦多レ

政府カ他ノ財產例ヘハ內國政府ノ公債証書及ヒ外國ノ公債証書若クハ一個人ノ商會或ハ合名會社ノ利益若クハ不動產書入質貸附証書若クハ無抵當貸附証書ニ歲入稅ヲ課ヒサルニ當リテ獨リ前ニ所謂動產稅ヲ課スルハ當ヲ得タル者ナルヤト云フ者アラン公平ノ理ヲ以テ

之ヲ見ル時ハ特ニ動產稅ヲ課スヘカラサルヤ明カナリ元來世人ハ通例動產ハ現ニ毎年ノ配當金利益ノ高ヲ減スル所ノ租稅ノ外他ニ租稅ヲ負擔セサル者ト信スレトモ大ニ誤レリト云ヘシ如何トナレハ動產ハ只ニ某會社ノ一部分ヲ所有スルヲ表スル者ニ過キスシテ其會社ハ己ニ無數ノ租稅例ヘハ地租若シ其會社ニシテ不動產ヲ有スレハ營業稅若シ商工ノ業ヲ營ム時ハ及ヒ記録印紙ノ諸稅ヲ負擔スル者ナレハナリ

然ラハ則チ動產ノ歲入ニ課スル所ノ租稅ハ一會社カ己ニ他ノ被稅者ト均ク負擔セシ租稅ノ外ニ課スル所ノ租稅ナリ試ニ苧麻紡績ヲ業トスル無名會社アリトセン該會社ハ一人ニシテ同額ノ資本ヲ以テ同業ヲ營ム者ト均ク諸稅ヲ負擔シ加フルニ歲入稅トシテ其純利益ニ課セラル、所ノ負擔アリ然ルニ此租稅ニ至リテハ諸國殊ニ佛國ニ於テ獨

力ノ紡績家ハ負擔セサル所ノ者ナリ今茲ニ製造家ヲ引証シテ論スル所ノ者ハ銀行營業ニ於ケルモ異ナル所ナレ例ヘハ巴里府ノ「コントワルド」デスコントノ如キ無名會社カ拂フ所ノ諸稅ハロツシルド銀行ノ如キ獨力ノ大銀行ト毫モ異ナル所ナレ然ルニコントワルド銀行ノ如キ又其他純利益ニ租稅ヲ拂ハサルヘカラスト雖是レ強敵手ナルロツシルド銀行ノ負擔セサル所ナリ由是觀之ハ別ニ動產稅ヲ行フ時ハ組合營業ヲナス者即チ中小ノ營業者ニ課スト雖巨大ノ資本家ニシテ會社條例ノ及ハサル者ニ課セサルノ大不便アリ然レトモ一般ノ歲入稅ヲ行フ所ノ國ニ於テハ敢テ此不便ナカルヘシ

動產ノ歲入ニ課スルニ特別ノ稅ヲ以テスルヲ當然ナリトスル者ノ說ニ曰ク動產ノ所有者ハ遊食ノ資本家ニシテ自ラ營業ヲ事トセス手ヲ拱レテ會社ノ主事頭取等カ得ル所ノ利益ノ配當ヲ以テ満足スル者ナ

リ加フルニ動產ノ所有者ハ損失ヲ受クルヲアリト雖限度アリ所有產ノ全力ヲ擧テ一會社ノ爲メニ責任ヲ負ハサルモ可ナリ假令ヒ其會社ノ破産スルヲアリト雖己レノ面目ニ關スルヲナク又該會社ニ投セサル所ノ資本ヲ失フノ患ナシト此言タル多少理ナキニアラス故ニ會社ノ利益ニ租稅ヲ課スルヲ獨力營業ノ所得ヨリ少シク重キモ敢テ恕スヘカラスト云フニアラス或ハ又曰ク獨力ノ營業者ハ營業稅トシテ其營業處若クハ器械ニ租稅ヲ拂フノミナラス其居家ノ家賃ニ營業稅ヲ拂フト雖無名會社ニ至リテハ其器械若クハ營業處ニ營業稅ヲ拂ヒ株主ノ家賃ニ租稅ヲ負ハサルナリト此言モ亦理アリ然レトモ一方ヨリレテ之ヲ云ヘハ之ニ對フル辭ナキニアラス即チ會社ハ資本ニ於テ株式或ハ負債證書ノ印紙稅ヲ拂フヲ多シト雖獨力營業者ニ至リテハ毫モ之ヲ負ハサルヲ是ナリ右ノ印紙稅ハ證書額面ノ一分ニシテ一時ニ

全額ヲ拂ハシムルアリ或ハ毎年一度之ヲ拂ハシムルアリ
 動産ノ所有者ヲ稱シテ遊食ノ資本家ナリト云フト雖豈ニ獨リ動産ノ
 所有者ノミナランヤ政府ノ公債証書ノ所有者不動産書入質貸附証書
 ノ所有者差金會社ノ有限株主無抵當ノ貸附証書ノ所有者モ亦毫モ動
 産ノ所有者ト異ナル所ナシ然ラハ則チ道理ニ於テモ推理ニ於テモ是
 等ノ財產家ハ動産ノ所有者ト均シク歳入税ヲ課スヘキナリ佛國ニ於
 テ動産ノ所有者ト均シク處スル者ハ獨リ差金會社ノ有限株主ノミ
 元來佛國ニ於テハ政府ノ公債証書抵當貸金不動産書入質貸附証書無
 抵當貸附証書ノ所有者ニ歳入税ヲ課セス就中無抵當貸附証書ニ稅セ
 サルハ見易キノ理アリ如何トナレハ此類ノ証書所有者ニ稅スルヲハ
 容易ナラサレハナリ只此輩ハ一般ノ歳入税ニ於テ稅スルヲ得ヘキノ
 ミ政府ノ公債証書ニ歳入税ヲ課セサル者ハ一ハ偏見一ハ計算上ニ由

ル世ノ偏見論者以爲シ政府ノ公債証書ニ至リテハ政府自ラ負債主ニ
 アラスヤ然ルニ租稅ノ名ヲ以テ其拂フヘント約束セシ利子ノ高ヲ減
 スルハ政府ノ權ヲ濫用シ不信ヲ天下ニ示メス者ナリト論者ノ言迷ヘ
 ルモ亦甚タシ矣余輩ハ本書國債ノ部ニ於テ之ヲ論究シ其迷妄ヲ挫折
 セントス然リト雖利益上ヨリ少シク考フル時ハ政府ハ必スシモ其公
 債証書ニ動産ノ歳入税ヲ課セサルモ可ナリ政府ノ公債証書ハ租稅ナ
 キヲ以テ他ノ有稅証書ニ比較シテ稅額ノ割合ニ賣買價格貴シ故ニ政
 府ハ負債ノ交替ヲナサハ利子ノ百分ノ一若クハ千分ノ五ヲ減スルヲ
 得ヘレ此方法ニ就テハ詳ニ國債ノ部ニ論スヘキヲ以テ今茲ニ辨論セ
 スト雖政府ノ爲メニハ遙カニ租稅ヲ課スルヨリ利アリ佛國ノ三分利
 付公債証書ノ如キ遙ニ平價以下ニテ發行セシ者ニシテ容易ニ平價ニ
 達スヘキ見込ナキ公債証書ト雖租稅ヲ課セサルニ利アリ如何トナレ

ハ政府ノ公債証書所有者ヲシテ佛國政府ハ決シテ其公債証書ニ租稅ヲ課セサル者ナリト信セシムルヲ得レハナリ佛國ニ於テハ習慣ノ久シキ政府ト公債証書ノ所有者ノ間ニ黙約ヲ生レ政府ニ於テハ自ラ發行セシ公債証書ニ租稅ヲ課スヘカラサルカ如キ形狀トナリ若シ之ヲ破ル時ハ信義ヲ失フカ如キ姿トナレリ故ニ之ニ租稅ヲ課セント欲セハ一般ノ歲入稅ヲ以テ申告法ニ據リ間接ニ之ヲ施コスニアラサレハ紛議ヲ免レサルヘシ

佛國ニ於テ不動産書入質貸附証書ニ租稅ヲ課セサルハ毫モ條理アルニアラス或ハ云フ是レ農業ヲ保護スルノ意ナリト然ルニ無名會社カ發行スル所ノ負債証書ハ工業ニ用フルアリ時トシテ農業ニ用ユルアリ法律上ニ於テハ工業ヲ措テ寧ロ農業ノ爲メニスヘント云フヲ得ス加之ナラス不動産書入ノ質附ハ農業改進ノ目的ヲ以テスル者殆ント

稀ナリ不動産書入ヲ以テ負債ヲ起ス者ハ我所有產ノ改進ヲナサント欲スルニアラスシテ已レノ不注意ヨリ信用買ヲナシタル物品代價ノ仕拂或ハ舊債ノ仕拂或ハ他ノ費用ニ供スルカ爲メニスル者ナリ斯ノ如ク通例不動産ノ書入ヲ以テ負債ヲナスハ其所有產ヲ會社ニ賣渡シテ之ヲ利用スルニアリ然ラハ則チ不動産書入質貸附証書ハ毫モ特權ヲ有スルノ理ナカルヘシ然ルヲ之カ租稅ヲ除スル時ハ甚キ不公平ヲ生スヘシ佛國ニ於テハ一個人ノ不動産書入質貸附証書ハ租稅ヲ課セスト雖クレダフオンシエノ發行セル負債証書ニシテ只不動産抵當ノ質附ヲ表スルニ過キササル者ハ歲入稅ヲ課ス是レ一個人ノ債主ヲ惠ミ質附會社ヲ苦シムル者ト云ヘシ

加フルニ佛國ニ於テ不動産書入質貸附証書ノ歲入稅ヲ免除スルハ一時ノ情狀ヨリシテ此ニ至リシ者ナリ嘗テ千八百七十一年ノ國會ハ鄉

村ノ議員多數ニシテ農民ニ私シテ製造地方ノ民ヲ苦ムルコトヲ厭ハス多數ノ力ヲ以テ農民ニ特權ヲ許スニ至レリ又一ニハ佛國ノ大禍難ニ際シテ政府ハ大ニ國債ヲ募リ六分若クハ多キハ六分二五ノ利子ヲ拂ヒシカ故ニ不動産抵當ヲ以テ資本ヲ貸與スルコトハ概シテ好マサルコトナレリ其此ニ至リシ所以ノ者ハ他ナシ不動産ノ抵當ニ資本ヲ貸與スルモ得ル所ハ五分ニ過キスト雖政府ノ公債ヲ買フ時ハ至安ニシテ六分乃至六分二五ヲ得タルニ由ル然ルヲ當時ハ人之ヲ以テ罪ヲ租稅ニ歸セリ佛國ノ法政府ノ公債ハ六分二五若クハ多キハ七分五(モルガ)ン公債ノ如キ)ノ利子ヲ附スルヲ許スト雖一個人ノ負債ハ常事ニ於テ五分以上ノ利ヲ附スルヲ許サス故ニ斯ノ如キ大變况ナカラシメハ不動産書入質貸附証書ニ歳入稅ヲ課スルモ決シテ該負債ノ維持若クハ發達ヲ妨クルコトナカルヘシ

抑不動産ノ歳入稅ヲ論スルニ當リテ研究セサルヘカラサル者ハ該稅實際ノ負擔是ナリ實際該稅ヲ負擔スル者ハ果シテ誰ゾヤ該稅ノ爲メニ証書所有者ノ配當金若クハ年々ノ利子ヲ減シテ之ヲ負擔スル者ハ其所有者ニアルカ將テ該稅設置ノ際ニ於テ一時ニ証書ノ價格ニ於テ租額ノ倍乘高ヲ減シ之ヲ負擔スル者ハ當時ノ所有者ニアルカ又將來ニ負債証書ヲ發行セント欲スル者ハ証書ノ價格租稅ノ爲メニ割合ニ著ルシキ減少ヲ致シテ自ラ歳入稅ノ全額ヲ負擔スヘキカスノ如クシテ不動産ノ歳入稅ハ内國ノ資本外移ヲ促カシ外國ノ資本來集ヲ妨グルノ患ナキヤ

該稅ノ負擔ハ場合ニ由リテ其歸着ヲ異ニスヘシ一國若シ一般ノ歳入稅ヲ行ヒ之ヲ輕課シ且ツ下等ノ歳入ハ若干額以下ニ稅セサル時ハ歳入稅ヲ負擔スル者ハ實地ニ利子及ヒ配當金ヲ受クル者ニアリト云フ

ヲ得ヘシ斯ノ如クナレハ歳入税ノ名ニ反カサル者ト云ヘシ方今英國ニ於ケルカ如キ是ナリ然ルニ歳入税ノ及フ所ハ特ニ動産ニシテ他ノ財産(不動産書入質貸附証書無抵當貸附証書一個人ノ營業利益内外政府ノ公債証書)ニ及ハス殊ニ税率重キ時ハ該税ノ爲メニ現今將來ノ動産兩ツナカラ其價格ヲ減スヘシ而シテ其減少ハ殆ト租額ノ倍乘高ニ均シカルヘシ是故ニ共資營業ヲナス者ハ其發行スル所ノ負債証書ノ價格減少ノ爲メニ更ニ負擔ノ重キヲ苦マサルヘカラス

右ニ言フ所ノ結果ハ寧ロ條理論ニシテ純ラ事實ニ徹スル者ニアラス之ヲ實際ニ見ル時ハ往々其結果ヲ折衷スルコト少ナカラス例ヘハ佛普戰爭以後佛國鐵道會社ノ負債証書ハ其歳入ノ三分ヲ税シ三分利ノ公債証書ニハ租税ヲ及ホサスト雖試ニ現今千八百七十六年ノ初メ鐵道會社負債証書ノ市價ヲ以テ三分利公債証書ノ市價ニ比スレハ其最良

カル兩証書市價ノ比例ハ戰爭以前ニ異ナルナキヲ見ルヘシ世或ハ其事實ヲ見テ歳入税ハ以テ負債証書ノ價格ヲ減スルニ足ラストセン然ルニ是レ當然ノ見ニアラスト云ヘシ實ニ佛國人民ハ初メ鐵道會社負債証書ノ安全ナルヲ知ラサリント雖困難ノ時ニ當リテ敢テ大ニ價格ヲ失ナハス又公債証書ハ政府ノ保護ニ止マレトモ鐵道會社ノ負債証書ハ政府保護ノ外尙舊建築鐵道ノ純歳入ニハ特別ノ利ヲ有シ且ツ年ニ其收入ノ増加スルヲ見テ却テ安全ナル思ヒヲナレ所謂實驗ニ據リ此五年間ニ於テ鐵道會社ノ負債証書ハ政府ノ公債証書ト均シク安全ナリト思フニ至レリ從前ハ政府ノ公債証書ト鐵道會社ノ負債証書ノ間ニハ凡ツ〇分五ノ利子ノ差ヲ存スルハ當然ナリト思ヒシモ此ニ於テカスノ如キ差違ヲ存スルコト足ラストナスニ至レリ故ニ此效驗ヲ見テ假令ヒ政府ハ鐵道會社負債証書ノ歳入ニ租税ヲ課セサルモ該証

書ノ價格ハ十五フランク若クハ二十フランクヲ騰貴セサルヘシト云フヘカラス

特ニ動産ニ租税ヲ課シ他ノ証書類ニ均シク租税ヲ課セサル時ハ動産ノ價格ハ常ニ租額ノ倍乘高即チ其國ノ習慣ニ從ヒ動産ノ種類ニ應シテ租額ノ十五倍二十倍若クハ二十五倍ニ均シキ高ヲ減スヘク又租税設置ノ後ニ出ツル所ノ動産バ其初メニ於テ該額ニ均シク價格ヲ減スヘレ例ヘハ甲乙ノ二國アリ(佛國白耳義トシ)疆域相接シ開明ノ度富ノ大小信用ノ厚薄共ニ相同フシテ一ノ營業會社(假リニ鐵道會社トナシ)アリトセン是等ノ會社ハ均ク繁榮ニシテ同時ニ負債證書ヲ發行セン然ル時ハ白耳義鐵道會社負債證書ノ價格ハ必ス貴ク佛國鐵道會社負債證書ノ價格ハ必ス低カルヘシ如何トナレハ白耳義會社負債證書ノ歳入ハ租税ナリ佛國會社負債證書ノ歳入ハ租税ヲ負擔スヘケレハナ

リ故ニ佛國ノ鐵道會社ハ其證書ノ價格ヲ減スルヲ以テ敵手ニ對シテ不利ノ位地ニアリト云ヘシ余輩カ此ニ言フ所ノ者ハ只ニ鐵道會社ニ止マラス紡績業炭坑業製鉄業等如何ナル營業會社ニ於ルモ皆同理ニシテ佛國ニ於ケル會社ノ株主ハ直接ニ株主配當金ニ課シ租税ヲ負擔スルノミナラス間接ニ又租税設置後ニ發行スル所ノ負債證書ノ利子ニ課スル租税ヲ負擔セサルヘカラス

佛國ニ於テ動産ノ歳入税ハ僅ニ三分ニシテ敢テ重シト云フニアラスト雖證書ノ讓與税アルカ爲メニ之ヲ増加ス右ノ讓與税ハ證書ノ所有者ヲ轉スル毎ニ課スル所ノ者ニシテ年賦ニ之ヲ徵收ス故ニ實際ニ於テハ年々其利子若クハ配當金ノ高ヲ減スルヲ大ニシテ動産所有者ノ負擔スル所ノ税額ハ配當金利子ノ六分若クハ七分ニ達ス或ル鐵道會社ノ負債證書ハ利子ノ高十五フランクニ付一フランク五サンチム

若クハ「フランク」十「サンチ」ムヲ負フ此ノ如キハ七分乃至八分ノ負擔トナル無名會社株式ノ價格ハ殆ト其割合ニ減スヘキヤ疑ヲ容レサル所ナリ若シ既設ノ會社ニシテ負債証書ヲ發行スルニ當リ其價ヲ減シテ自ラ証書ノ利子ニ課ル租稅ヲ負擔スルニアラサレハ内地ノ資本ハ大ニ外國ニ轉移スヘシ

特ニ動産ノ歲入稅ヲ課スルニ當リ尙一點ノ論究スヘキアリ則チ内國ノ動産ニシテ外國人ノ所有タル部分并ニ外國發行ノ証書ニシテ動産稅ヲ課スル所ノ國ニアル部分ニ該稅ヲ課スヘキヤ否ヤ是ナリ佛國ニ於テハ兩ナカラ之ヲ課スヘキ者トナレ無名會社ノ証書ハ其白耳義ニアル者日耳曼ニアル者以太利ニアル者ヲ問ハス悉ク動産ノ歲入稅ヲ課セリ佛國ノ証書ニシテ外國ニアル者ハ該稅ヲ課セサルヘシトナスハ宜キヲ得ル者ニアラス若シ之ヲ免除セハ内國ノ動産所有者ニシテ

租稅ヲ免カル者多カルヘシ如何トナレハ外國市府ニ於テ証書ヲ出シ利子ノ仕拂ヲ請求セハ該稅ヲ避クルヲ容易ナルヘケレハナリ余輩ハ本書國債ノ部ニ於テ政府ノ公債証書ニ於テハ時トシテ外國ノ所有者ニ特惠ヲ與フト雖其弊ヲ避ケンカ爲メニ外國ニ於テ全額ノ仕拂若クハ金貨ニテ仕拂ヲ請フ者アレハ誓書ヲ要シ利札ノミナラス本証書ヲ示メサシムルヲアルヲ論スヘシ實際ノ經驗ニ由テ之ヲ見ルニ是等ノ方法ハ無益ニアラスト雖亦全ク奸曲ヲ禁スルニ足ラス

政府ノ公債証書ニ課スル租稅ノ事ハ國債ノ論題ニ屬スル者タルヲ以テ後篇ニ遺シ敢テ本篇ニ論究セサルヘシト雖尋常ノ動産ニ關スル者ハ此ニ之ヲ論セン凡ク動産ノ歲入ニ租稅ヲ課スル時ハ外國ニアル所ノ証書ト雖租稅ヲ除クヘカラス又内國ニ流通スル所ノ外國証書モ均ク之ヲ稅スヘシ然レトモ其之ヲ發行セル國ニ於テ已ニ我カ課スル者

ト均シク歳入税ヲ課スル時ハ之ヲ税セサルヲ要ス如何トナレハ若シ
 兩國政府ニ於テ交モ一ノ動産ニ租税ヲ課セハ証書ノ所有者ハ毫モ得
 ル所ナカルヘケレハナリ例ヘハ以太利ニ於テハ動産税トシテ一割三
 分ニ課ス故ニ三分利ノ負債証書五百フランクノ歳入ハ十五フラン
 クノ名アリト雖實際ハ十三フランクニサンチームニ過キス若シ佛國
 政府ニ於テ又別ニ六分若クハ七分歳入税讓與税ヲ合セタル税率ヲ課
 セハ益之ヲ減シ只ニ純歳入ハ十二フランクニサンチームトナルヘシ
 是レ兩國政府相合シテ凡ソ歳入ノ二割ヲ徴收スル者ナリ豈ニ過重ト
 云ハサルヘケンヤ

佛國ノ如ク特ニ動産ノ歳入ニ税シ之ニ加フルニ讓與税ヲ以テシ負擔
 ヲ重フスル時ハ一國ヲシテ國際ノ財産即チ萬國市場ニ賣買セラル所
 ノ財産ヲ所有セシムルコトヲ妨クルノ不便アリ目下スエズ堀割大業ノ

株式ノ如キ是ナリ世人ハ此事業ヲ以テ全ク佛國人ノ手ニ成ルト稱ス
 雖是自ラ其實況ヲ知ラサル者ト云フヘシ近年英國ハ埃及王カ千八
 百九十四年迄所有權ヲ抛チシ所ノ株式十七萬六千六百二箇ヲ購ヘリ
 二十二萬三千三百九十八株并ニ該會社ノ手形負債証書及ヒ他ノ財産
 式可成丈ケ佛國ノ所有ニ存セシムルハ邦家ノ利ナリ然ルニ是等ノ証
 書ノ大數ヲシテ漸次英國若クハ荷蘭ニ歸セシムルニ二大原因アリ第
 一英蘭二國ニ於テハ資本ノ利子佛國ニ於ケルヨリ低シ故ニ動産ノ市
 價佛國ニ於ケルヨリ大ナリ此形情タル故意ヲ以テ左右スルヲ得ヘキ
 者ニアラス又如何トモスル能ハス然リト雖尙茲ニ佛國法律ノ爲メニ
 同一ノ效驗ヲ生スル者アリスエズ堀割會社ノ証券ハ佛國ニ於テ歳入
 税ヲ課シ又讓與税トシテ年賦ニ其配當金若クハ利子ニ課スルヲ以テ
 負擔頗ル重シ元來スエズ堀割會社ハ法律上ニ於テ埃及ノ會社ニシテ

佛國ノ會社ニアラサルカ故ニ諸外國ニ流通スル所ノ該會社ノ証券ハ是等ノ二稅ヲ負擔セスト雖佛國ニ於テハ二稅ヲ合セテ實際歲入ノ八分ヲ負擔ス然ラハ則チ英國人民荷蘭人民カ來リテ之ヲ買去ルモ亦宜ヘナラスヤ

英國ニ於テハ動産ノ歲入ニ稅アリト雖甚タ輕ク方今ハ百分ノ一ニ達セス加フルニ一般ノ歲入稅ノ一部ニシテ歲入二千五百フランクニ達セサル者ハ之ヲ除ク

佛國動産ノ歲入ニ課スル所ノ稅率ハ三分ニシテ千八百七十五年ノ收入高ハ實ニ三千四百五十萬フランクトス凡ソ毎年百五十萬フランクニ増加アリ

實ニ動産ノ歲入稅ハ其稅ニアラス特ニ之ヲ課スヘカラス假令ヒ之ヲ課スルモ一般ノ歲入稅ニ於テスヘシ然ルニ國庫ノ空乏ナル者ハ其不

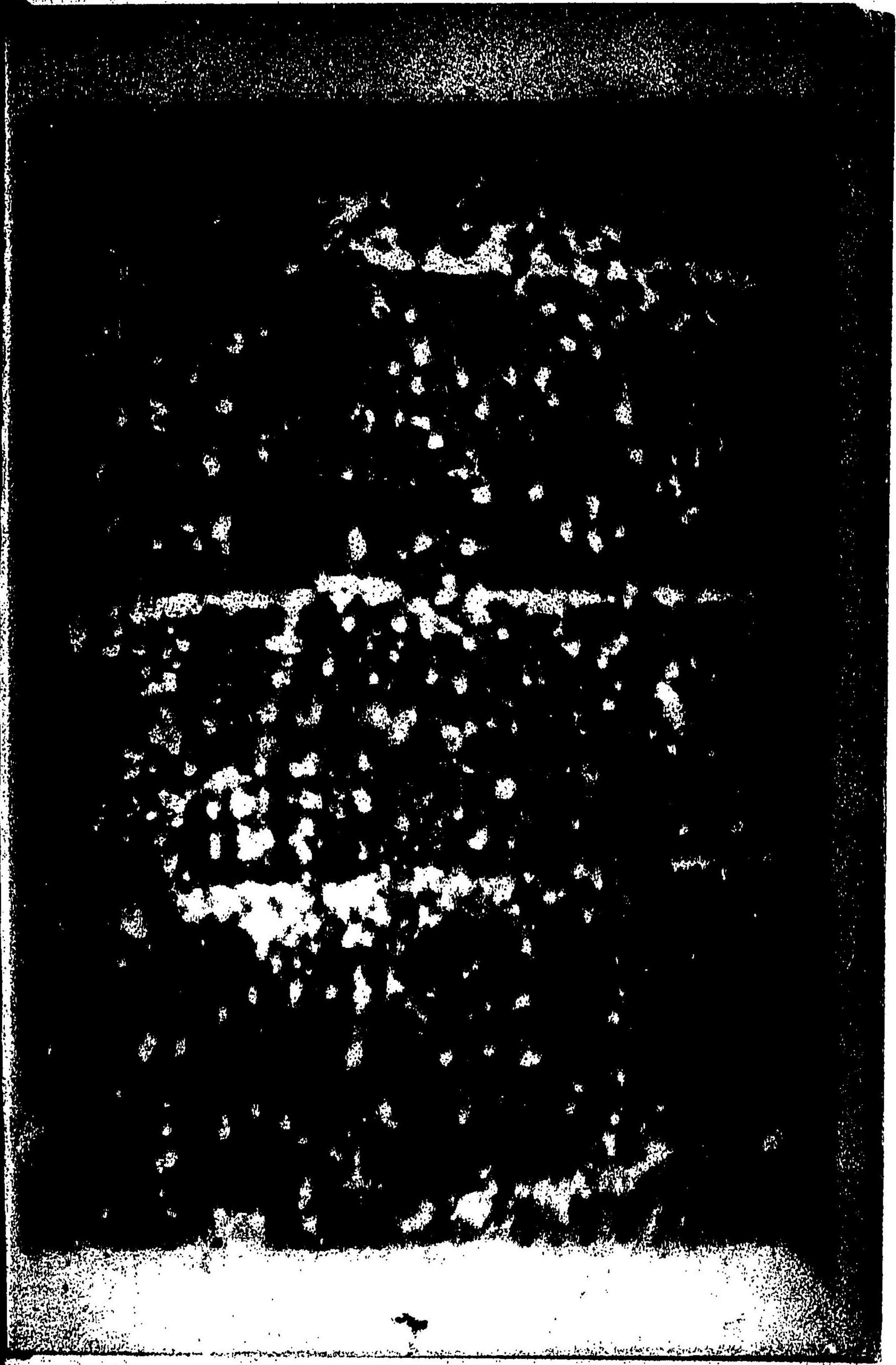
便ヲ厭ハステ動産ノ歲入ニ特別ノ稅ヲ課スル者アリ假令ヒ之ヲ行フモ能ク其短處ヲ解シ課テ動産ノ所有主ヲ以テ地主ト同一視スル勿レ動産ハ則チ所有産若クハ資本ノ証表ニシテ已ニ國內ノ諸稅ヲ負擔スル者ナリ豈ニ不動産ト同視スヘキモノナランヤ

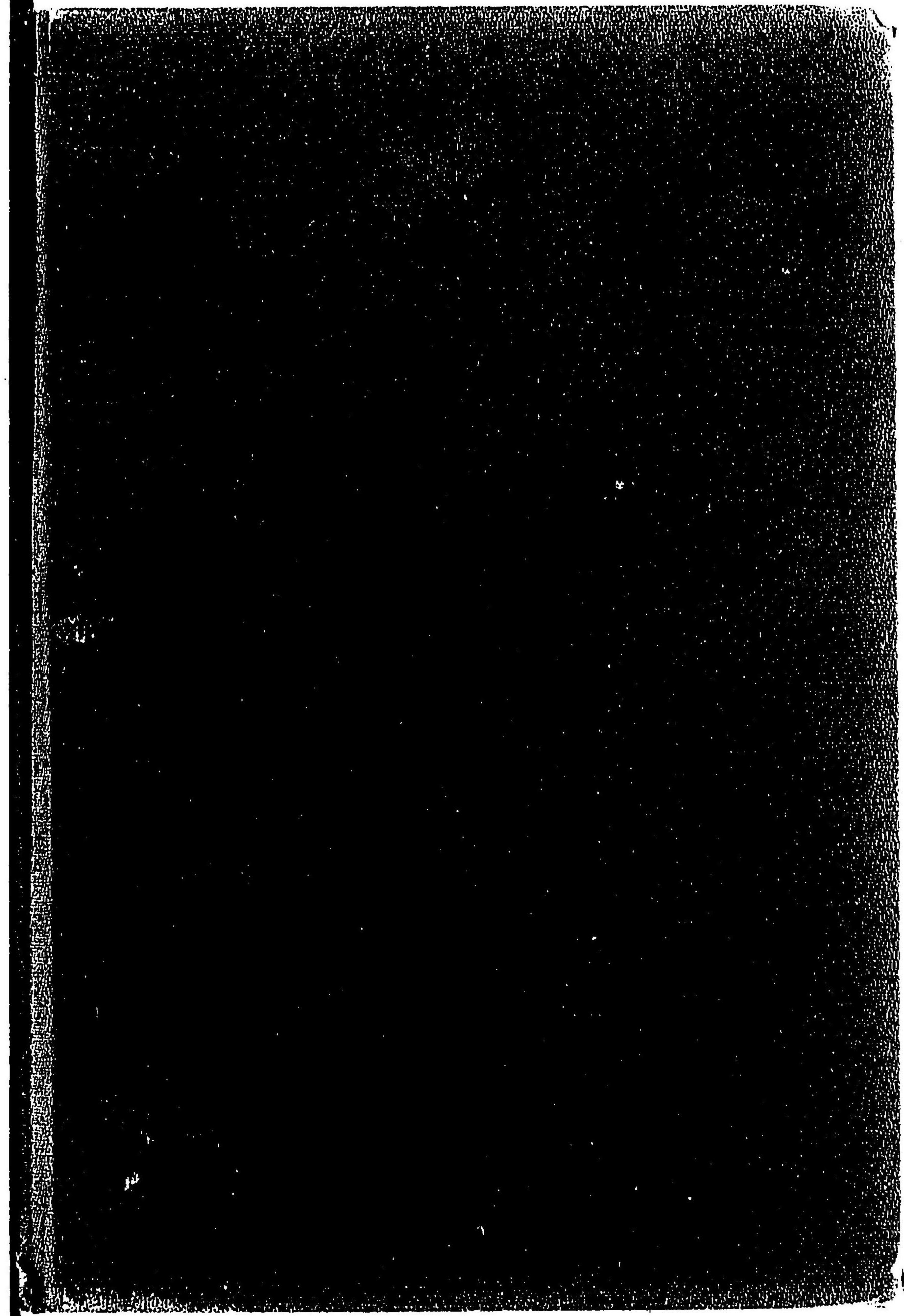
正誤

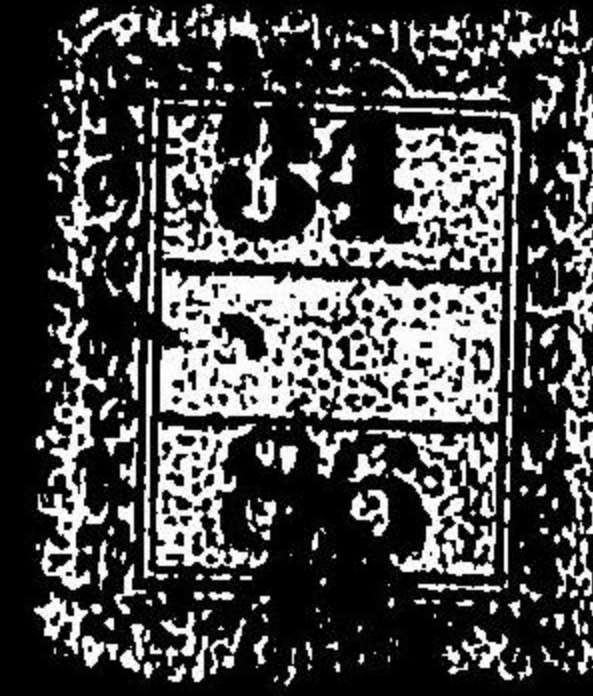
十五丁九行 饒〔繞〕ノ誤	四十五丁五行 來〔来〕ノ誤
四十六丁八行 柴〔獎〕ノ誤	五十丁四行 條〔格〕ノ誤
百六十五丁十一行 云フノ下〔二〕脱	百六十八丁二行 ゼ、ユ〔ゼ、ヨ〕ノ誤
百七十五丁十二行 敗〔財〕ノ誤	百七十八丁八行 上ノ十ノ下〔二〕脱
百八十四丁二行 説〔稅〕ノ誤	二百三十六丁三行 下ノル〔レ〕ノ誤
二百三十九丁七行 レ〔ル〕ノ誤	二百六十六丁五行 ヲ〔ノ〕ノ誤
二百八十六丁三行 美〔實〕ノ誤	二百九十一丁五行 フラシクノ下〔ヲ〕脱
二百九十四丁四行 上ノ〔ヲ〕衍	
三百十八丁四行 課ノ下〔ス〕脱	

明治十六年六月廿五日出版屆

34
86







題 番 圖 泉 末
 三 八 三 三
 冊 号 架 函 屬 類

310377-001-0

34-86

租税論 第2冊

ポール・レルワ・ボ
リユー 原著

租税局 訳

